

小牧市教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況
の点検及び評価の結果に関する報告書

第1 点検及び評価の対象及び実施日

対 象 令和5年度における教育委員会の権限に属する事務の管理及び
執行の状況

実施日 令和6年7月11日

第2 点検及び評価の方法

教育委員会事務局において、令和5年度教育委員会基本方針に掲げた重点施策について、令和5年度実績をまとめた点検評価シートを作成した。当該点検評価シートを外部の学識経験者等からなる評価委員会に諮り、教育委員会にて議決した。

第3 点検及び評価の結果

点検評価シート（令和5年度実績）に記載

令和5年度の重点施策

基本目標1 時代を切り拓く力を育む「学び」の充実

- ☞ 人と関わり合いながら学ぶ「学び合う学び」を進め、様々な課題に関心を持って主体的に学ぶことで、確かな学力を育みます。
- ☞ 理数教育や国際教育などを充実し、未来にはばたく人材を育成するとともに、特別支援教育や外国人児童生徒への教育を推進します。

具体的な取組 (教育振興基本計画の施策番号)		担当課																																							
「学び合う学び」を支える教員研修の実施（施策1）		学校教育課																																							
内 容	「学び合う学び」を土台に据えた学級・授業づくりに役立つ実技講座や児童・生徒理解、指導にかかわる研修を効率的・効果的に実施します。																																								
達 成 状 況	・各小中学校においてO J Tを推進するとともに、学校経営や授業づくりに必要な専門的技能と資質を高める研修や、学校現場での課題に対応するための研修を行いました。 ・教育委員会において参加者のニーズを踏まえ、「学び合う学び」を土台に据えた様々な実技研修や座学研修を行いました。 ・小牧市全教職員を対象に、小牧がこれまで取り組んできた「学び合う学び」の成果と課題を確認し、これからの小牧の教育について考える機会として教育講演会を開催しました。 ・教育現場での I C T機器の効果的な活用について考える研修を行いました。																																								
	◆主な研修の種類 <table><thead><tr><th rowspan="2">研修項目</th><th colspan="3">参加延べ人数</th></tr><tr><th>R5 年度</th><th>R4 年度</th><th>R3 年度</th></tr></thead><tbody><tr><td>現職教育研修（研修参加人数）</td><td>923 人</td><td>932 人</td><td>944 人</td></tr><tr><td>新任・少経験・経験教員研修</td><td>262 人</td><td>243 人</td><td>271 人</td></tr><tr><td>校長・教頭・教務主任・校務主任等研修</td><td>617 人</td><td>581 人</td><td>581 人</td></tr><tr><td>専門研修（教育課題への対応）</td><td>266 人</td><td>266 人</td><td>245 人</td></tr><tr><td>専門研修（教職専門性の向上）</td><td>940 人</td><td>725 人</td><td>1,146 人</td></tr><tr><td>特別研修</td><td>448 人</td><td>310 人</td><td>348 人</td></tr><tr><td>教育講演会</td><td>558 人</td><td>0 人</td><td>641 人</td></tr><tr><td>中堅教員国内派遣研修</td><td>2 人</td><td>2 人</td><td>2 人</td></tr></tbody></table>			研修項目	参加延べ人数			R5 年度	R4 年度	R3 年度	現職教育研修（研修参加人数）	923 人	932 人	944 人	新任・少経験・経験教員研修	262 人	243 人	271 人	校長・教頭・教務主任・校務主任等研修	617 人	581 人	581 人	専門研修（教育課題への対応）	266 人	266 人	245 人	専門研修（教職専門性の向上）	940 人	725 人	1,146 人	特別研修	448 人	310 人	348 人	教育講演会	558 人	0 人	641 人	中堅教員国内派遣研修	2 人	2 人
研修項目	参加延べ人数																																								
	R5 年度	R4 年度	R3 年度																																						
現職教育研修（研修参加人数）	923 人	932 人	944 人																																						
新任・少経験・経験教員研修	262 人	243 人	271 人																																						
校長・教頭・教務主任・校務主任等研修	617 人	581 人	581 人																																						
専門研修（教育課題への対応）	266 人	266 人	245 人																																						
専門研修（教職専門性の向上）	940 人	725 人	1,146 人																																						
特別研修	448 人	310 人	348 人																																						
教育講演会	558 人	0 人	641 人																																						
中堅教員国内派遣研修	2 人	2 人	2 人																																						

点検評価シート（令和5年度実績）

課 題	・ I C T教育研修や、経験年数の浅い教員の力量向上のための研修を充実していく必要があります。 ・ 教職員研修の充実は必要ですが、多忙化解消の観点から授業や他の業務を考慮した研修計画が必要です。 ・ 集合研修、オンライン研修、動画活用など、実施方法についても検討していく必要があります。
今後の取組の方向性	・ 評価を含めた授業づくり、プログラミング教育を含めた I C T教育の研修などを充実させます。 ・ 教職員の負担を考慮しながら研修内容を随時見直し、時代の要請、教職員のニーズに応じた研修を企画します。 ・ 「学び合う学び」を進める教員の力量向上のための研修を引き続き企画します。 ・ 経験の少ない教員の増加が予想されていることから、児童生徒理解や教科の指導法等、より具体的な事例を挙げ効果的な O J Tを進めます。 ・ オンライン研修、動画を活用した研修も検討していきます。
評 価 委 員 の 意 見 等	・ 働き方改革の中で効率的な研修の方法を考えていく必要があるが、一人ひとりの個性や多様性に応じた豊かな学びを実現するには、専門職である教師の力量を高める必要があり、授業研究、教材研究、子ども理解のための時間を確保することが不可欠です。 ・ 経験年数の浅い教員の力量向上と共に研修を通じたつながりづくりという視点もあれば、自主的な学び、またはやりがいの創出にもつながっていくと思います。 ・ 市の特色である「学び合う学び」を推進するためにも、教員の多忙化に留意しながら、効果的な研修を進めてほしいです。 ・ 研修はおおむね例年通りの参加人数であると評価します。特別研修の参加が特に増加している点は高く評価できます。 ・ G I G Aスクール構想が進められる中で、教員の I C T活用の格差の解消が課題となると考えます。多忙な実務の中で、効率的な研修方法が望まれます。 ・ 参加人数が増加させることが目的ではなく「学び合う学び」が主であるならば、受講する人が何を学んだかが重要です。研修を実施することが目的になっていないか疑問です。 ・ 日頃の先生方のご尽力には心より頭が下がる思いとともに、感謝の一念に尽きます。目に見えない数限りない仕事の多さが少しでも効率よく減らせるよう、また、だからといって教育の本質部分は昔も今も変わらず維持できたらありがたい限りです。

点検評価シート（令和５年度実績）

具体的な取組 (教育振興基本計画の施策番号)		I C Tを活用した学びの充実（施策3）			担当課 学校教育 I C T推進室																								
内 容	第2次小牧市学校教育 I C T推進計画に基づき、I C T教育のパイオニア校（小牧小・大城小・小牧中・光ヶ丘中）において、クラウドサービスや学習履歴等を効果的に活用した学びについて研究・実践します。																												
達 成 状 況	・パイオニア校において、個別課題（①特別支援教育、②外国人児童生徒・日本語指導、③いじめや不登校の早期発見・指導、④児童生徒のこころの健康観察・相談対応）に取り組み、実践結果を報告書にとりまとめ、全校に情報共有しました。 ・学校では、子どもが授業支援ソフトウェアに毎時間の振り返りを入力・蓄積して、自分の考えの変容や深まりを実感したり、次時の目標を具体的に立てたりしています。また、共同編集機能により、リアルタイムでクラスメートの多様な考えに触れ、学びを深めたりしています。 ・教員は子どもたちの振り返りデータから、授業のねらいに即した学びになっているかを確認したり、次時の授業展開に生かしたりしています。 ・I C T支援員が各校を月4回程度訪問し、I C T機器に苦手意識を持つ教員のニーズにあわせて授業支援を行ったり、校内研修の支援を行ったりしています。 ◆1日1回以上タブレットを活用しているクラスの割合 <table><tr><th></th><th>小学校</th><th>中学校</th><th>市全体</th></tr><tr><td>令和4年2月時点</td><td>47.4%</td><td>79.8%</td><td>54.3%</td></tr><tr><td>令和4年12月時点</td><td>55.5%</td><td>80.0%</td><td>60.4%</td></tr><tr><td>令和5年12月時点</td><td>64.2%</td><td>81.1%</td><td>68.4%</td></tr></table> ◆パイオニア校アンケート結果 <table><tr><th>項目</th><th>R4年2月</th><th>R4年12月</th><th>R5年12月</th></tr><tr><td>授業の中で I C T機器を活用したいと感じている教員の割合</td><td>98.2%</td><td>96.0%</td><td>95.1%</td></tr></table>						小学校	中学校	市全体	令和4年2月時点	47.4%	79.8%	54.3%	令和4年12月時点	55.5%	80.0%	60.4%	令和5年12月時点	64.2%	81.1%	68.4%	項目	R4年2月	R4年12月	R5年12月	授業の中で I C T機器を活用したいと感じている教員の割合	98.2%	96.0%	95.1%
	小学校	中学校	市全体																										
令和4年2月時点	47.4%	79.8%	54.3%																										
令和4年12月時点	55.5%	80.0%	60.4%																										
令和5年12月時点	64.2%	81.1%	68.4%																										
項目	R4年2月	R4年12月	R5年12月																										
授業の中で I C T機器を活用したいと感じている教員の割合	98.2%	96.0%	95.1%																										
課 題	・日常の授業でより効果的に活用することはもちろんのこと、不登校や発達障がいなど、様々な困難を抱える児童生徒に対する支援として、多様な場面で I C Tを活用していく必要があります。 ・次世代の校務 D Xに向けて、クラウドツールを活用し、校務の効率化・ペーパーレス化を進める必要があります。																												

点検評価シート（令和5年度実績）

今後の取組 の方向性	・不登校及び別室登校児童生徒等の学習支援・相談、心の健康観察などにおいて、ICTの活用を推進します。 ・FAX及び押印等の見直しも含めて、業務の円滑化・効率化の観点から、各種デジタル化及びペーパーレス化を推進します。
評価委員 の意見等	・学習面では、児童生徒の学習内容の理解、学び合いの促進などにICTの効果はさらに期待できます。従来からの発問、板書、教材研究などの教師の教育技術との併用、融合、発展が望まれます。また、校務の効率化にも効果を発揮するため、働き方改革の実現にはICTの効果的な利用が欠かせません。ただし、学校の組織的な教育力を保持し高めるためには、教員相互が対面でコミュニケーションする機会も大切であり、バランスのよい学校運営を考えていくことが望まれます。 ・不登校及び別室登校児童生徒等の学習支援・相談においてオンラインを用いることも検討してほしいです。 ・タブレット端末の活用を含めたICT活用は、今後の教育には不可欠となってきます。タブレットを活用したクラスの割合が、おおむね増加しており好ましい状況だと考えます。 ・授業にICT活用を推進していることは理解し、賛成ですが、教員への負担が増加していることが考えられます。教員の業務負担を減らす目的にも活用するべきと考えます。

点検評価シート（令和5年度実績）

具体的な取組 (教育振興基本計画の施策番号)		担当課																	
学校生活サポーターの配置（施策 4）		学校教育課																	
内 容	特別支援学級に在籍する児童生徒をよりきめ細やかに支援するため、学校生活サポーターを増員し、教員や特別支援教育相談員などとの連携により支援体制を充実します。																		
達 成 状 況	- 各小中学校の特別支援学級において、担任のもとで児童生徒の学校生活を支援する「学校生活サポーター」を増員し、支援の充実を図りました。 - 学校生活サポーターは、児童生徒が学習課題を行う際の手助けや、他の学級との交流及び共同学習のための教室移動の付き添など、担任と相談しながら個々の児童生徒の状態に応じた支援を行いました。 - 学校生活サポーターへの支援体制として、合同研修会を学期ごとに実施し、事例を持ち寄り支援の方法などを話し合ったり、カウンセラーの講演を聞いたりすることを通して、児童生徒への寄り添い方などを習得し、業務に役立てました。 <table><tr><th>項目</th><th>R5 年度</th><th>R4 年度</th><th>R3 年度</th></tr><tr><td>特別支援教育介助員</td><td>0 人</td><td>0 人</td><td>0 人</td></tr><tr><td>学校生活サポーター</td><td>18 人</td><td>16 人</td><td>15 人</td></tr><tr><td>特別支援学級に在籍する児童生徒数</td><td>324 人</td><td>299 人</td><td>280 人</td></tr></table>			項目	R5 年度	R4 年度	R3 年度	特別支援教育介助員	0 人	0 人	0 人	学校生活サポーター	18 人	16 人	15 人	特別支援学級に在籍する児童生徒数	324 人	299 人	280 人
項目	R5 年度	R4 年度	R3 年度																
特別支援教育介助員	0 人	0 人	0 人																
学校生活サポーター	18 人	16 人	15 人																
特別支援学級に在籍する児童生徒数	324 人	299 人	280 人																
課 題	- 平成 28 年 4 月に「障害者差別解消法」が施行され、より重度の障がいがある児童生徒が、地域の学校への就学を希望することが増えてきています。 - 外国人児童生徒の増加に伴い、障がいがある外国人児童生徒も増えてきています。																		
今後の取組の方向性	- 支援が必要な児童生徒の増加に対応するため、令和 6 年度は学校生活サポーターを 3 名増員し、21 名体制とします。 - 今後も特別支援学級に在籍する児童生徒の人数や個別支援が必要な児童生徒の状況を把握し、適切に学校生活サポーターを配置するように取り組んでいきます。																		
評価委員の意見等	- サポーターの増員や、合同研修会の実施など、良い取り組みを続けていていただきたいと思います。通常の学級でインクルーシブ教育の実現に近づけていく努力が必要であり、個別の支援という視点はもとより、どの子も学べる学校、学級づくりの視点も大切です。 - 学校生活サポーターへの研修実施などを通したよりよい支援体制づくりを望みます。																		

点検評価シート（令和5年度実績）

	・ 特別支援学級に限らず障がいを抱える児童生徒への対応は多岐にわたり、教育効果を上げるためには人的措置が必要です。学校生活サポーターの配置は継続して拡充していただきたいです。 ・ 今後も日本語を母国語としない児童生徒の増加が見込まれるため、現状の対応では不十分な面が多いと考えられます。早急な語学相談員の補強が必要であると考えます。 ・ 国籍が多様化する中、生活サポーターも多様化させないと変化が激しい現状に対応できなくなると思います。
--	--

点検評価シート（令和 5 年度実績）

具体的な取組 (教育振興基本計画の施策番号)		必要に応じた語学相談員の配置（施策 5）		担当課 学校教育課																													
内 容		日本語教育が必要な児童生徒の支援体制において、新たにベトナム語の語学相談員を配置し、通訳、翻訳、学習支援、進路相談等を行うことにより、外国人児童生徒の教育の充実を図ります。																															
達 成 状 況		・平成 30 年度から、語学相談員等のマネジメント機能を強化するため、日本語初期教室室長を配置しています。また、令和 5 年度は、ポルトガル語 6 名、スペイン語 5 名、タガログ語 6 名、中国語 3 名、ベトナム語 1 名、ほか 1 名の計 22 名の語学相談員（日本語初期教室を含む）を配置しました。 ・日本語指導員を日本語初期教室 2 名、巡回 2 名の計 4 名配置し、日本語の指導を行いました。 ・来日直後で日本語指導が必要な児童生徒を対象に、日本語初期教室（にじっこ教室）で約 3 ヶ月間、集中的に日本語や日本の学校生活におけるルールを指導するとともに、母語の個別指導も実施しました。 <table><tr><th rowspan="2">場 所</th><th colspan="3">入室児童生徒数</th></tr><tr><th>R5 年度</th><th>R4 年度</th><th>R3 年度</th></tr><tr><td>にじっこ教室（大城小学校内）</td><td>10 人</td><td>13 人</td><td>9 人</td></tr><tr><td>分室（適応指導教室カルミア 1 階）</td><td>24 人</td><td>30 人</td><td>18 人</td></tr></table>				場 所	入室児童生徒数			R5 年度	R4 年度	R3 年度	にじっこ教室（大城小学校内）	10 人	13 人	9 人	分室（適応指導教室カルミア 1 階）	24 人	30 人	18 人													
場 所	入室児童生徒数																																
	R5 年度	R4 年度	R3 年度																														
にじっこ教室（大城小学校内）	10 人	13 人	9 人																														
分室（適応指導教室カルミア 1 階）	24 人	30 人	18 人																														
課 題		・日本語が不自由な児童生徒が増加傾向にあります。また、ポルトガル語、スペイン語、タガログ語、中国語以外の言語の児童生徒が年々増えており、多言語化が進んでいます。 <table><tr><th>項目</th><th>ポルトガル語</th><th>スペイン語</th><th>タガログ語</th><th>中国語</th><th>その他</th><th>合計</th></tr><tr><td>R5 年度</td><td>325 人</td><td>203 人</td><td>275 人</td><td>48 人</td><td>94 人</td><td>945 人</td></tr><tr><td>R4 年度</td><td>353 人</td><td>194 人</td><td>284 人</td><td>49 人</td><td>76 人</td><td>956 人</td></tr><tr><td>R3 年度</td><td>347 人</td><td>206 人</td><td>277 人</td><td>54 人</td><td>66 人</td><td>950 人</td></tr></table> ※その他（13 ヶ国語）：英語、韓国語、ウルドゥ語（パキスタン）、インドネシア語、ベトナム語等 ・令和 2 年度以降は、新型コロナウイルス感染症の影響により大幅な増加はありませんでしたが、令和元年度の出入国管理法の改正に伴い、今後、日本語指導が必要な児童生徒が増えていく可能性があります。				項目	ポルトガル語	スペイン語	タガログ語	中国語	その他	合計	R5 年度	325 人	203 人	275 人	48 人	94 人	945 人	R4 年度	353 人	194 人	284 人	49 人	76 人	956 人	R3 年度	347 人	206 人	277 人	54 人	66 人	950 人
項目	ポルトガル語	スペイン語	タガログ語	中国語	その他	合計																											
R5 年度	325 人	203 人	275 人	48 人	94 人	945 人																											
R4 年度	353 人	194 人	284 人	49 人	76 人	956 人																											
R3 年度	347 人	206 人	277 人	54 人	66 人	950 人																											

点検評価シート（令和5年度実績）

今後の取組 の方向性	・多言語化に対応するため、日本語初期教室の体制の増強を検討していく必要があります。 ・出入国管理法の改正の影響を注視し、多くの児童生徒が同じ時期に集中して日本語初期教室に入室を希望した場合に対応できるよう、新たな施設の確保を検討します。 ・語学相談員に日本語能力検定の受験を勧めるなど、能力・意欲の向上に努めます。
評価委員 の意見等	・新型コロナウイルス感染症による入国の制限が外れたことにより、日本語指導が必要な児童生徒が増えているようであるため、取組の充実が求められます。 ・ニーズを持つ子どもや保護者に対して、もれなく行き届くような体制づくりをしていってください。 ・外国籍児童生徒が日本にうまく適応するためには、小中学校での十分な教育が大切で、逆にうまく適応できなかった場合には、道を誤ったり犯罪に巻き込まれたりすることが懸念されます。 ・外国人といえども、義務教育の必要性を理解するとともに社会に出てからどう生き抜いていくかも考えた将来への展望まで見据えてほしいと願います。そのためにも、語学相談員の充実は今後も必要だと思います。 ・今後も日本語を母国語としない児童生徒の増加が見込まれるため、現状の対応では不十分な面が多いと考えられます。早急な語学相談員の補強が必要であると考えます。 ・日本語の体制の強化を図ることも重要ですが、英語などの授業を充実させて、グローバルに活躍できる人材育成も重要です。 ・多言語化に対応していくことへの苦労はいかばかりかと存じます。そのような中でも日本という素晴らしい国の歴史、言語、文化は伝え続ける必要があると考えます。

基本目標2 認め合い高め合う豊かな心と、健やかな体の育成

- ④ 国や郷土を愛する心と自己肯定感を養うとともに、いのちを大切にする心や他者を思いやる心を育みます。
- ④ 体力の向上や学校給食を通じた食育、読書活動の推進など、心身の健全な成長を支えます。

具体的な取組 (教育振興基本計画の施策番号)	児童生徒の心のケアの実施（施策6）	担当課 学校教育課																		
内 容	スクールソーシャルワーカーを増員し、貧困やネグレクト、ヤングケアラーなどといった家庭環境に要因がある児童生徒の支援体制を強化します。																			
達 成 状 況	・スクールソーシャルワーカーは平成27年度に1人配置され、平成30年度からは2人配置となり、令和4年度からは3人配置となり、令和5年度からは4人配置となりました。 ・スクールソーシャルワーカーの配置人数が増え、より多くの学校に派遣できるようになったことで、各校でのスクールソーシャルワーカーに対する理解度が深まり、より連携してケースに対応できるようになりました。 <table><tr><td></td><td colspan="3">スクールソーシャルワーカー活動実績</td></tr><tr><td></td><td>R5 年度</td><td>R4 年度</td><td>R3 年度</td></tr><tr><td>スクールソーシャルワーカー人数</td><td>4 人</td><td>3 人</td><td>2 人</td></tr><tr><td>訪問活動回数</td><td>1,167 回</td><td>862 回</td><td>582 回</td></tr></table>					スクールソーシャルワーカー活動実績				R5 年度	R4 年度	R3 年度	スクールソーシャルワーカー人数	4 人	3 人	2 人	訪問活動回数	1,167 回	862 回	582 回
	スクールソーシャルワーカー活動実績																			
	R5 年度	R4 年度	R3 年度																	
スクールソーシャルワーカー人数	4 人	3 人	2 人																	
訪問活動回数	1,167 回	862 回	582 回																	
課 題	・ひとり親や貧困の家庭などの増加により、支援が必要な子どもや家庭が抱える課題や問題は多岐にわたり、解決には多くの時間や人員などを要します。 ・学校と関係機関（警察・児童相談所・福祉事務所・市役所関係部署など）の連携を密にする必要があります。																			
今後の取組の方向性	・学校と情報共有し、早期対応に心がけていきます。 ・より多くの学校にスクールソーシャルワーカーを派遣できるようにするため、令和6年度は2人増員し、6人体制とします。																			
評 価 委 員 の 意 見 等	・スクールソーシャルワーカーの配置が、年を追うごとに増えてきていることはよいことです。さらにニーズは高いと思われるため、今後も引き続き拡充していくことが望まれます。 ・近年、子どもの貧困・社会格差により、社会から取り残される子どもがいることが懸念されています。また、それが分かるまでには、問題がある程度進んでからであることが多いです。民生委員																			

点検評価シート（令和5年度実績）

	をはじめ様々な関係機関と連携して実態把握に努めるべきだと思います。 ・複雑な家庭環境にある児童生徒、特に「子どもの貧困」が問題になって十数年たちますが、社会的にはまだ、緩和されている状態ではありません。彼らの環境整備、学習保障については、スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラー、教員、地域ボランティアなどとの連携が必要であると考えます。 ・子どもは親から嫌われないように、常に気を使いながら生活しているところがあると思います。特に、家庭環境に問題がある子どもに多いと感じます。気づきをどこまでするかが重要であるため、学校と関係機関が連携して気を配るしかないと思います。
--	--

点検評価シート（令和5年度実績）

具体的な取組 (教育振興基本計画の施策番号)		担当課										
情報モラルの育成（施策7）		学校教育ICT推進室										
内 容	家庭にも協力を仰ぎながら、児童生徒及び教職員が情報モラル及び情報セキュリティについて学ぶ機会をつくり、情報のもつ力を正しく理解し、適切に判断できる力を磨きます。											
達 成 状 況	・ 小学校の低学年からタブレットを使用するときのルール、インターネットの安全な使い方、ゲーム依存の怖さなど情報モラル教育の指導に取り組みました。 ・ 2学期に、全小学校の3年生以上を対象に、タブレットを活用した情報モラル教材のテストを実施し、その結果を踏まえた指導を行いました。 ・ これからのデジタル社会においては、子どもたちが自分自身で判断してデジタル社会を安全に行動できる力を育成するデジタル・シティズンシップ教育が求められているため、ご家庭でお子さんと一緒に「我が家のルール」を決めたり、情報を正しく安全に利用することについて話し合ったりする大切さや、参考になるウェブサイトなどをICT教育に関する保護者向けリーフレット「ICTしんぶん」に掲載し、周知啓発しました。 ・ 生成AIの急速な普及を踏まえ、夏休み前に、保護者に生成AI利用の年齢制限や保護者同意等について注意喚起するとともに、児童生徒に生成AIの性質や限界、ファクトチェックの方法等を指導しました。 ◆パイオニア校アンケート結果 <table><tr><th>項目</th><th>R4年2月</th><th>R4年12月</th><th>R5年12月</th></tr><tr><td>インターネットやメール、SNSなどを利用するときのルールやマナーに気を付けていると感じている児童生徒の割合</td><td>98.2%</td><td>98.5%</td><td>96.6%</td></tr></table>				項目	R4年2月	R4年12月	R5年12月	インターネットやメール、SNSなどを利用するときのルールやマナーに気を付けていると感じている児童生徒の割合	98.2%	98.5%	96.6%
項目	R4年2月	R4年12月	R5年12月									
インターネットやメール、SNSなどを利用するときのルールやマナーに気を付けていると感じている児童生徒の割合	98.2%	98.5%	96.6%									
課 題	・ クラウドサービスを活用する社会において、児童生徒が自身のID・パスワードなどの個人情報や他者の情報などを適切に管理できるよう、情報モラル教育を充実する必要があります。											
今後の取組の方向性	・ 令和4年度に作成した「情報モラル指導カリキュラムチェックリスト」を踏まえ、子どもたちの発達段階に応じて体系的に指導したり、子ども自身がタブレットの使用ルールづくりに参画したりして、情報モラル教育を充実します。 ・ 教員の指示がなくても、子ども自身が主体的・自律的にICTを活用できるようにデジタル・シティズンシップ教育を推進します。											

点検評価シート（令和５年度実績）

評 価 委 員 の 意 見 等	・「ＩＣＴしんぶん」をはじめとして、タブレットの使用や、情報モラルについて、保護者への情報発信が適切になされています。特に中学生に対しては、ルールとして教えるだけでなく、ＩＣＴを使うことによるリスク要因がなぜ起きるのかを考えたり、知識として理解したりする機会も大切です。 ・小中学校と系統的かつ積み上げ式の取組となるように発展させていってください。 ・今でもそうですが、これからの人生の中でＳＮＳは切っても切れないものです。ＳＮＳ関連の犯罪は後を絶たないため、情報モラル教育は、子どものうちからしっかりとしておくことが必要だと思います。 ・ウェブやＳＮＳと接するようになる児童生徒たちは、常に危険と隣り合わせにいます。一般の社会人においても正しく情報モラル教育を受けていない人が多く、教員も含め、児童生徒たちへ早期に適切な情報モラルの教育が必要です。 ・根本的原因是、インターネットの普及により、情報を最短路線で取得することにより、想像力の発達が未熟なことです。もっと、自由に考えさせる教育が重要であると考えます。 ・学校は勉強以外も学ぶことのできる場所であり、勉強だけでは塾でいいと思います。生き抜く上で重要な情報モラルの学びの場をつくる必要があります。
----------------------------	---

点検評価シート（令和5年度実績）

具体的な取組 (教育振興基本計画の施策番号)	図書館ボランティアの育成（施策8）	担当課 図書館
内 容	子ども読書活動の推進に繋がるおはなし会や催しができる図書館ボランティアの養成講座を実施し、ボランティアの増員を図ります。	
達 成 状 況	・ 新規ボランティア団体立ち上げを前提に、ボランティア養成講座を実施し、人材の掘り起こしと育成を行いました。	
	【ボランティア養成講座(連続4回)】	
	講師	北島多江子氏 (朗読家・絵本作家・一般社団法人絵本プロフェッショナル協会代表理事)
	日程	テーマ
	1月28日(日)	基本となる絵本の持ち方・絵本の仕組みと意味
	2月4日(日)	年齢が異なる子どもたちへの絵本の組み合わせ方
	2月18日(日)	紙芝居の楽しみ方、エプロンシアター、手遊び歌
	3月10日(日)	実践練習、総まとめ
	受講者数 20名	
	・ 上記講座の受講者をメンバーとして新規ボランティア団体「おはなしのこぼこ」及び「どんぐりひろば」を立ち上げました。	
課 題	・ 利用者のニーズを把握し、時代に合わせたイベントの実施が必要です。 ・ 立ち上げから当面の間はメンバーの定着等、継続的に活動していく基盤の構築を要するため、図書館による十分な支援が必要です。	
今後の取組の方向性	・ 令和6年4月より、えほん図書館を拠点として、新規ボランティア2団体が活動を開始します。 ・ 当面の間は図書館担当者がボランティアの会議に同席するなど十分な支援を行い、活動を軌道に乗せていきます。	
評価委員の意見等	・ 地道な活動の継続を評価します。 ・ 図書館と関係するボランティアの方々や団体とは、長期にわたる連携によって、互いに信頼関係が築かれており、今後も支援と連携を深めていく方向で進めてください。	

点検評価シート（令和5年度実績）

具体的な取組 (教育振興基本計画の施策番号)	栄養教諭・学校栄養職員等による食育・給食指導 (施策10)	担当課
		学校給食課
内 容	望ましい食習慣や食生活を習得させる食育指導の充実を図るとともに、給食に地元農産物を取り入れ、地元農業や郷土料理等、食に対する理解を深めます。	
達 成 状 況	・栄養教諭5人、栄養職員1人により、市内小学校の5学年の全クラスを目標に市内各校を巡回し、家庭科や給食の時間などを活用して、野菜の摂取量などの栄養バランスや、小牧や愛知の特産物などの食育指導を行いました。 ・学校給食における地産地消については、地元産の食材を取り入れ、地元農業や郷土料理への関心を高める取組を行いました。（センターごとの対応で延べ40回～70回程度実施） ・6月、11月の「愛知を食べる学校給食週間」に加えて、1月の全国学校給食週間に合わせて「小牧を知る学校給食の日」を初めて位置付けし、愛知県産や小牧産の食材を集中して提供して、校内放送や給食だよりを通じ、特産物の由来や栄養面などの指導に努めました。 ・オーガニック食材を使用した献立を9月に提供しました。	
課 題	・栄養教諭や栄養職員は学校と給食センターの兼務であるため、指導のための十分な時間をとることが難しい状況です。 ・農産物生産者の高齢化や天候不順などで、供給量や質の安定的確保が年々困難になってきています。 ・食物アレルギーのある児童生徒が増えており、その現状を踏まえた食育、給食指導が必要となっています。 ・物価高騰においても栄養量の確保が必要となります。	
今後の取組の方向性	・栄養教諭や栄養職員による食に関する指導に加えて、他の教職員の食に関する指導や給食委員の啓発に活用できる媒体やポスターなどの作成、配布に努めます。 ・栄養教諭や栄養職員による指導機会の確保のため、ICTの活用を含む効率的な実施方法を検討します。 ・農産物生産者と連絡を密に行い、給食食材の提供可能な時期や供給量を考慮しつつ、学校給食献立作成を進めていきます。 ・食物アレルギー対応として、特定原材料を除く献立やユニバーサル給食など、できるだけ皆が同じ給食を食べる機会を提供することで、食物アレルギーに対する意識付けを行います。 ・オーガニック食材を使用し、環境にも意識を持たせます。 ・定期的に物価変動に伴う適正な給食費の検討を行います。	

点検評価シート（令和5年度実績）

評 価 委 員 の 意 見 等	・「小牧を知る学校給食の日」の取組はすばらしく、愛知県産や小牧産を意識することは、食への関心を高めるとともに、食糧生産やそれを支える人々の重要性を理解する機会となり、社会科や道德との連携も大切であります。 ・食生活や習慣についての教育は、児童生徒の健康面の健全な育成に欠かせません。地域の特産、季節に合った食材などの知識が深められるような食育も取り入れていってください。 ・学校生活において、放課と給食が息抜きになっていると思います。 ・一家庭の日々の献立を考えるだけでも頭を悩ませているのに、給食に携わっている全ての方々には本当に感謝しかありません。アレルギー対応や宗教対応などさらなるハードルが高まる中で、ご無理のない範囲で対応してください。全ての要望に応える必要はないと思っています。
----------------------------	--

基本目標3 未来につなげる、安全で充実した教育環境づくり

- ☞ 放課後などの学習支援や経済的な支援を充実するなど、一人ひとりのこどもの学びを保障し、教育の質を高めます。
- ☞ 学校施設の整備など、すべてのこどもが安心して学ぶことができる環境を整えます。

具体的な取組 (教育振興基本計画の施策番号)	児童生徒に対する学習支援の実施（施策11）	担当課
		こども政策課
内 容	「駒来塾」を開設し、学習意欲があっても学力の定着が進んでいない中学生を対象に、教員OBなどの協力を得て、学習支援活動に取り組めます。	
達 成 状 況	・令和元年度より全中学校区を対象として、市内4地区で実施しており、学校の協力のもと、全生徒に募集チラシを配布するとともに、福祉総務課及び学校教育課と連携し、生活保護世帯、児童扶養手当受給者及び就学援助費受給者へ働きかけを行いました。 ・令和3年度より、できるだけ新規生徒が学ぶ時間を取れるよう、入塾の時期を1ヶ月前倒ししました。 ・令和4年度に引き続き、夏休み終了後に追加募集を実施し、20人の追加入塾がありました。 ・4教室合わせて100人の参加があり、基礎学力に合わせた個別の学習支援を実施しました。 ・参加している生徒は、母子（父子）家庭をはじめ、外国籍、不登校など、それぞれの事情を抱えており、また、学習理解度の差もあるため、個々の生徒にあわせた対応に心がけています。 ・参加する生徒や保護者を対象としたアンケート結果から満足度は高く、徐々に勉強する習慣が身についてきている様子がうかがえました。また、講師と生徒、生徒同士などの交流により、お互いの成長を育む居場所づくりにもなりました。 ・令和5年度は3月の開催回数を増やし、年間46回開催しました。 ・令和5年度は追加募集に合わせて入塾を検討する中学生を対象に見学会を実施したところ、9名の参加がありました。また、駒来塾を必要とする生徒が中学に進学後、すぐに入塾できるよう、小学6年生を対象に卒業前の2月に見学会の参加者を募集したところ、11名の参加がありました。	

点検評価シート（令和5年度実績）

	開催日等	毎週木曜日 午後6時30分から午後8時 年間46回開催
	参加料	無料
	対象教科	数学、英語を中心に5教科
	学習内容	宿題や教科書を持参しての自主学習を基本とし、学習支援員や学習サポーターが質問に答えながら学習を実施。各教室にてテスト後の復習や補充プリントなどを実施することもある。
	学習体制	各教室とも学習支援員2～3人、学習サポーター2～3人の体制で、講師1人につき生徒3～4人を担当。講師については、登録制によるローテーションを組んでいる。
	【東部地区】 場 所：東部市民センター学習室・視聴覚室 参加生徒：20人（篠岡中4人・桃陵中7人・光ヶ丘中9人） 登録講師：12人（学習支援員8人・学習サポーター4人） 【北里地区】 場 所：北里市民センター集会室 参加生徒：15人（北里中11人・小牧西中4人） 登録講師：7人（学習支援員6人・学習サポーター1人） 【味岡地区】 場 所：味岡市民センター視聴覚室 参加生徒：25人（小牧中1人、味岡中7人・岩崎中17人） 登録講師：10人（学習支援員6人・学習サポーター4人） 【小牧地区】 場 所：中部公民館会議室1・2 参加生徒：40人（小牧中24人・応時中16人） 登録講師：15人（学習支援員8人・学習サポーター7人）	
課 題	・母子（父子）家庭をはじめ、不登校傾向の生徒など、様々な事情を抱えている生徒がおり、継続して参加してもらえるような個々に応じた対応や働きかけが必要です。 ・参加生徒が増加傾向にあるため、サポートする学習支援員や学習サポーターを確保することが必要です。	

点検評価シート（令和５年度実績）

今後の取組 の方向性	・入塾しやすいよう、令和５年度に引き続き、定員に余裕があれば追加募集や見学会を行います。 ・生徒への指導方法や運営など情報共有を図るため、定期的に塾長会を開催します。 ・入塾希望者数の状況に応じ、開催回数や新たな開催場所について検討します。 ・令和５年度に引き続き、駒来塾を必要とする生徒が中学に進学後や進級後、すぐに入塾できる仕組みを構築します。 ・教員を目指す大学生などの学習サポーターを確保するため、大学へのチラシ配布、広報での周知等により、積極的に声かけなどを行います。
評価委員 の意見等	・市全体で、子どもの育ちを支える取組であり、意義の大きいものと評価できます。 ・施策６とも関連しますが、より多くの児童生徒が駒来塾に参加できるよう実態把握に努めるとともに支援員・サポーターの増員にも努めてほしいです。 ・親の家計状況の格差は、子どもの貧困の問題、学力の格差とも相関関係があるといわれています。民間の塾に通塾できない中学生に対して、公的な支援をさらに拡大することで、家計格差からくる貧困問題、学力格差を緩和する必要があると考えます。 ・とてもいい取組なので、継続してもらいたい。少し懸念事項があるとすれば、生徒の中には、対人関係で不安を抱えている生徒もいるかもしれないので、Z o o m、T e a m sなどのネット配信も着手できれば良いと考えます。

点検評価シート（令和 5 年度実績）

具体的な取組 (教育振興基本計画の施策番号)	こども夢・チャレンジ事業の展開（施策 1 3）	担当課																		
		こども政策課																		
内 容	こどもの将来の夢を育むきっかけとして様々な事業を展開します。 ①学習支援事業「駒来塾」 ②プログラミング講座 ③市内産業見学会開催事業 ④夢にチャレンジ助成金支給事業 ⑤大学生等海外留学奨学金支給事業 ⑥こども夢サポーター制度																			
達 成 状 況	・「こども夢・チャレンジ No.1 都市」の実現に向けて、こどもの夢を育み、夢へのチャレンジを応援する事業を展開しました。 ①学習支援事業「駒来塾」 ※「児童生徒に対する学習支援の実施」（施策 1 1）を参照 ②プログラミング講座 中部大学と連携し、デジタルのモノづくりを学ぶため、全 4 回の講座を小学 4～6 年生を対象に実施しました。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>場 所</th><th>開 催 日</th><th>参 加 者</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>中部大学</td><td>11 月 25 日（土）、12 月 2 日（土）、 12 月 9 日（土）、12 月 16 日（土）</td><td>10 人（内訳）4 年生 7 人 5 年生 2 人 6 年生 1 人</td></tr> </tbody> </table> ③市内産業見学会開催事業 小学 5・6 年生及び中学生を対象に、地元企業などへの愛着を育む機会として、市内企業の見学や職業体験を行いました。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>開 催 日</th><th>参 加 者</th><th>見 学 ・ 体 験 先</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>7 月 31 日（月）</td><td>12 人</td><td>午前：株式会社中部共同印刷 工場見学 午後：ダイキ精工株式会社 工場見学</td></tr> <tr> <td>8 月 2 日（水）</td><td>15 人</td><td>小牧消防署 防火衣装着・放水体験など</td></tr> <tr> <td>8 月 25 日（金）</td><td>19 人</td><td>小牧市民病院 救命処置など</td></tr> </tbody> </table> ④夢にチャレンジ助成金支給事業 25 歳以下の高校、大学などの在籍者を対象に、自分の夢を実現するための計画を募集し、公開プレゼンテーションによる審査を行い、優秀者に助成金（上限 1 件 30 万円）を支給しました。 対象者は市内在住、在学の満 15 歳以上満 25 歳以下の高校生、大学生、社会人などであり、グループ単位での応募も可能です。 また、活動期間は単年度もしくは、翌年度末まで可能です。		場 所	開 催 日	参 加 者	中部大学	11 月 25 日（土）、12 月 2 日（土）、 12 月 9 日（土）、12 月 16 日（土）	10 人（内訳）4 年生 7 人 5 年生 2 人 6 年生 1 人	開 催 日	参 加 者	見 学 ・ 体 験 先	7 月 31 日（月）	12 人	午前：株式会社中部共同印刷 工場見学 午後：ダイキ精工株式会社 工場見学	8 月 2 日（水）	15 人	小牧消防署 防火衣装着・放水体験など	8 月 25 日（金）	19 人	小牧市民病院 救命処置など
場 所	開 催 日	参 加 者																		
中部大学	11 月 25 日（土）、12 月 2 日（土）、 12 月 9 日（土）、12 月 16 日（土）	10 人（内訳）4 年生 7 人 5 年生 2 人 6 年生 1 人																		
開 催 日	参 加 者	見 学 ・ 体 験 先																		
7 月 31 日（月）	12 人	午前：株式会社中部共同印刷 工場見学 午後：ダイキ精工株式会社 工場見学																		
8 月 2 日（水）	15 人	小牧消防署 防火衣装着・放水体験など																		
8 月 25 日（金）	19 人	小牧市民病院 救命処置など																		

点検評価シート（令和５年度実績）

交付決定 件数	交付実績	内容
1 件	184,855 円	「国の統治とその正統性、市民社会への影響を 考察するスタディツアー」

さらに、この制度を将来活用していただけるよう、その契機として
中学生を対象とした夢を語る発表の場「夢にチャレンジ発表会」を
開催しました。

応募者	発表者	内容
2 人	2 人	「くじらの研究者になりたい」 「夢探し」

⑤大学生等海外留学奨学金支給事業

海外の大学に、3 ヶ月以上留学しようとする大学生等に、留学先の
国や地域に応じて、12 回を上限に、月額 4 万～5 万円を支給しまし
た。

対象者は市内在住の満 15 歳以上満 25 歳以下の高校生、大学生、
社会人などであり、所得基準については、日本学生支援機構の第二
種奨学金支給基準を準用しています。

令和 5 年度は 3 件の申請があり、3 件を決定しました。令和 5 年度
に留学をし、奨学金を支給したのは 8 件（1,311,346 円）でした。

	人数	留学先
高校生	2 人	アメリカ
大学生	6 人	アメリカ、オーストラリア

⑥こども夢サポーター制度

市とともにこどもの夢を応援する団体や企業を募り、こども夢サ
ポーターとして登録し、登録証の交付とこまき山ぬいぐるみを贈呈
するとともに、市のホームページで各登録者の取組を紹介しました。

【登録数】（各年度末現在）

R5 年度	R4 年度	R3 年度	R2 年度	R 元年度	H30 年度	H29 年度	H28 年度	合計
2 団体	1 団体	0 団体	3 団体	4 団体	7 団体	31 団体	26 団体	74 団体

点検評価シート（令和５年度実績）

課 題	①学習支援事業「駒来塾」 ※「児童生徒に対する学習支援の実施」（施策１１）参照 ②プログラミング講座 ③市内産業見学会開催事業 ・市内企業や大学と調整を図り、安全、安心に実施できる内容とする必要があります。 ④夢にチャレンジ助成金支給事業 ⑤大学生等海外留学奨学金支給事業 ・応募者が少ないため、応募者の増加を図る必要があります。 ⑥こども夢サポーター制度 ・一定数の登録があり、新たな登録申請が少なくなっています。事業の周知を図り、広報などで募集を呼びかけ、知名度を高める必要があります。
今後の取組の方向性	①学習支援事業「駒来塾」 ※「児童生徒に対する学習支援の実施」（施策１１）参照 ②プログラミング講座 ③市内産業見学会開催事業 ・子どもたちが将来の希望や夢を持てるよう、その契機となるような取組や新たな受入れ先の企業を検討します。 ④夢にチャレンジ助成金支給事業 ⑤大学生等海外留学奨学金支給事業 ・引き続き活動内容や制度について広報やホームページ、SNSで周知するとともに、対象世代が集まる場所での公開による、活動の実績報告会を開催します。 ・中学生の「夢にチャレンジ発表会」の効果や社会人留学や語学留学の応募状況などを踏まえるとともに、対象となる子ども・若者の意見を聞くなど、より効果的な制度となるよう引き続き検討を進めます。 ⑥こども夢サポーター制度 ・ホームページ上や広報にて制度をわかりやすく紹介し、登録のメリットを明確にしていくとともに、こども夢サポーター制度についてあらためて整理し、効果的な制度として活用に向けた検討を行います。

点検評価シート（令和5年度実績）

評 価 委 員 の 意 見 等	・ 学校教育以外での学習の機会として、プログラミングや企業見学など、大学・企業・団体等との連携は有効であり、今後も充実させていくことが望ましいです。それと共に、地域の産業や学術、そして文化・スポーツを担う団体との連携は、「社会に開かれた教育課程」の観点から学校教育においても、充実を図っていただきたいと思います。 ・ ④夢にチャレンジ助成金支給事業、⑤大学生等海外留学奨学金支給事業については、小牧市内の学校に積極的に宣伝・広報をすることなども考えられます。 ・ 就職や仕事の在り方の変化が進む社会において、プログラミングなど新たなスキルに関する教育支援を拡充し、その受講機会を増加していくことが重要であると考えます。 ・ 子どもたちが進んで地域の行事に参加したり、行政が主催する街づくりイベントに参加したりして、社会人としての認識を育み、主催者意識の高揚を図ることを熱望しています。そのことに関しては、市全体の事業の中に点在する内容を見直すことからも見出すことができると思っています。 ・ 経済的な理由により、ジュニア育成活動や部活動への入部を断念し、経済負担の少ない水泳部に入る子どもが多いと聞いたことがあります。多様化し、多国籍化する現代で、経済的な問題を抱える家庭の子どもが求める「こども夢・チャレンジ事業」が他にもあれば良いと考えます。
----------------------------	---

点検評価シート（令和５年度実績）

具体的な取組 (教育振興基本計画の施策番号)	学校施設の改修（施策１４）	担当課
		教育総務課
内 容	老朽化・狭あい化が進んでいる米野小学校の改築に向け計画的に事業を進めます。令和５年度は、基本構想・基本計画を基に、基本設計を行います。また、小学校（１校）、中学校（１校）のトイレの洋式化改修工事を実施するなど、学校施設の計画的な改修に取り組みます。	
達 成 状 況	【米野小学校改築】 ・基本構想・基本計画を基に、基本設計を行いました。 ・地域住民、ＰＴＡ関係者、学識経験者などで構成する改築協議会や児童ワークショップを開催し、幅広く意見を聴取しました。 【トイレの洋式化】 ・小学校１校、中学校１校のトイレ改修工事を実施し、トイレを和式から洋式に改修しました。 【学校施設の改修】 ・屋上防水や外壁、体育館の床などの老朽化した箇所を、計画的に改修しました。	
課 題	・学校施設全体が老朽化しているため、児童生徒が安全・安心で快適に学校生活を過ごすことができるよう、施設の整備を実施する必要があります。 ・米野小学校の改築工事に伴い、運動場の縮小、騒音や振動の発生、学校敷地への工事車両の進入などにより、教育環境が制限される可能性があります。 ・学校トイレの洋式化率は、81.8%であり、引き続き洋式化を進めていく必要があります。	
今後の取組の方向性	・老朽化した学校施設の状況を把握し、緊急度の高い箇所から計画的に改修を進めていきます。 ・米野小学校の改築工事においては、教育環境の確保、児童の安全確保と共に、周辺住民にも配慮した工事計画となるよう、学校、設計者と綿密に連携して設計を進めていきます。 ・トイレの洋式化が完了していない学校のトイレ改修工事を計画的に実施していきます。	
評価委員の意見等	・ワークショップを行い、広く意見を聴きながら学校の改築が行われていることはよいと思います。今後のモデルとして、意見がどう設計に活かされたかについても発信していくことが望まれます。	

点検評価シート（令和5年度実績）

	・トイレ改修、洋式化の際は性的マイノリティの子どもたちへの配慮も意図して進められるとよいと思います。 ・和式トイレは子どもの生活と合いません。全面洋式化を進めてください。また、新設は必ず洋式でお願いします。 ・児童生徒の安全確保、快適な学習環境の実現は、授業を実施しながら計画的に進める必要があります。授業に支障をきたさない方法、さらに予算の確保も重要な課題であると考えます。 ・各教室へのエアコン設置はもとより、体育館へのエアコン設置は急務と考えます。自然災害が頻発することで、避難場所に設置している体育館は生命線であると考えます。
--	---

点検評価シート（令和５年度実績）

具体的な取組 (教育振興基本計画の施策番号)		I C T機器の整備・充実（施策１４）		担当課 学校教育 I C T推進室																																									
内 容		小中学校の教職員用コンピュータ、小学校のプログラミング教材及び指導者用デジタル教科書等を更新します。 また、１台の教職員用端末で２つのネットワーク（校務系及び校務外部接続系）を切り替えて利用するネットワーク分離環境を構築し、セキュリティの強化を図ります。																																											
達 成 状 況		・校務支援用コンピュータとして、小中学校の教職員用のノート P Cを更新しました。 ・小学校のプログラミング教材、情報モラル教材、指導者用デジタル教科書及びプリンタ等を更新しました。 ・小中学校（小牧小・小牧南小・味岡中を除く）の職員室のネットワーク機器及び L A N回線を更新しました。 ・ネットワーク分離ソフトを導入し、１台の教職員用端末で２つのネットワーク（校務系及び校務外部接続系）を切り替えて利用するネットワーク分離環境を構築しました。 ・校務支援システムにダッシュボード機能を追加し、学級及び各児童生徒の出欠状況・保健室利用・成績関連データ等を読み取ることができる環境を整備しました。 【令和５年度の整備機器】 <table><tr><td></td><td>小学校</td><td>中学校</td></tr><tr><td>教職員用ノート P C</td><td>178台</td><td>158台</td></tr></table> 【パソコンの配備台数（令和５年度末）】（次の表に続く） <table><tr><th rowspan="2">区分</th><th colspan="4">児童生徒１人１台分</th></tr><tr><th>G I G Aスク ール構想分</th><th>モデル校よ り移管</th><th>P C 教室より 移管</th><th>移 動 用より 移管</th></tr><tr><td>小学校</td><td>8, 263 台 (iPad)</td><td>－</td><td>－</td><td>－</td></tr><tr><td>内 R5 年度更新</td><td>－</td><td>－</td><td>－</td><td>－</td></tr><tr><td>中学校</td><td>3, 082 台 (Surface Go2)</td><td>792 台 (Surface Go)</td><td>360 台 (Surface Go)</td><td>89 台 (Surface Go)</td></tr><tr><td>内 R5 年度更新</td><td>－</td><td>－</td><td>－</td><td>－</td></tr><tr><td>合計</td><td>11, 345 台</td><td>792 台</td><td>360 台</td><td>89 台</td></tr></table>					小学校	中学校	教職員用ノート P C	178台	158台	区分	児童生徒１人１台分				G I G Aスク ール構想分	モデル校よ り移管	P C 教室より 移管	移 動 用より 移管	小学校	8, 263 台 (iPad)	－	－	－	内 R5 年度更新	－	－	－	－	中学校	3, 082 台 (Surface Go2)	792 台 (Surface Go)	360 台 (Surface Go)	89 台 (Surface Go)	内 R5 年度更新	－	－	－	－	合計	11, 345 台	792 台	360 台	89 台
	小学校	中学校																																											
教職員用ノート P C	178台	158台																																											
区分	児童生徒１人１台分																																												
	G I G Aスク ール構想分	モデル校よ り移管	P C 教室より 移管	移 動 用より 移管																																									
小学校	8, 263 台 (iPad)	－	－	－																																									
内 R5 年度更新	－	－	－	－																																									
中学校	3, 082 台 (Surface Go2)	792 台 (Surface Go)	360 台 (Surface Go)	89 台 (Surface Go)																																									
内 R5 年度更新	－	－	－	－																																									
合計	11, 345 台	792 台	360 台	89 台																																									

点検評価シート（令和５年度実績）

	（前の表の続き）				
	区分	PC 教室	校務統合系 （図書室含む）	授業用	計
	小学校	－	725 台	653 台	9,641 台
	内 R5 年度更新	－	178 台	－	（178 台）
	中学校	9 台	448 台	400 台	5,180 台
	内 R5 年度更新	－	158 台	－	（158 台）
	合計	9 台	1,173 台	1,053 台	14,821 台
課 題	・既存の学習 e ポータルのサービス終了を受けて、令和 6 年度中に別の学習 e ポータルへの切り替えを行う必要があります。 ・今後の通信量増大を見据えて、令和 6 年度のアクセスポイント更新後の通信環境について調査し、改善点の洗い出しを行う必要があります。 ・令和 7 年度の児童生徒 1 人 1 台タブレットの更新に向けて、必要な仕様等を確定し、県の共同調達により事務を進める必要があります。 ・将来の校務情報のクラウドサービス利用を想定し、教育ネットワークの在り方について検討する必要があります。				
今後の取組 の 方 向 性	・各社の学習 e ポータルの機能等を比較検討し、本市にとって最適な学習 e ポータルを令和 6 年度早期に選定し、冬休み中に切り替えを実施します。 ・令和 7 年度のタブレット更新を県の共同調達で行うため、補助金申請に必要となる各種計画を策定します。 ・校務支援システムのクラウド化に向けて、アクセス認証方法及びクラウドへのデータ保存について調査研究します。				
評 価 委 員 の 意 見 等	・校務支援システムのクラウド化や e ポータルの移行を円滑に進めてください。 ・教育の I C T 活用が進む中で、ハードは 5 年、ソフトはもっと短い期間で更新することが望ましいです。ランニングコストの確保と、古いハードとソフトは、サポート期間が終了している等、セキュリティ面にも問題がある可能性があることから、適正な時期での更新が重要と考えます。また、新しいハードとソフトに対応できるような職員研修も必要です。 ・I C T 機器の整備は積極的に実施していけば良いと思います。ただ、情報の漏洩や誤った利用等がないようにセキュリティの強化と情報モラル教育も同時に整備が必要です。				

点検評価シート（令和５年度実績）

具体的な取組 (教育振興基本計画の施策番号)	(仮称) 新たな学校づくり推進事業 (施策 14)	担当課	
		教育総務課	
内 容	学校施設の老朽化や児童生徒数の減少が進む中、将来を担う子どもたちの充実した教育環境の整備方針とするため、学校施設の適正規模・適正配置や、子どもたちにとって望ましい教育環境の基本的な考え方を整理した「(仮称) 新たな学校づくり推進計画」を、令和6年度の策定に向けて進めます。		
達 成 状 況	・「小牧市新たな学校づくり推進計画」の策定のため、学識経験者や教員、PTA代表等で構成する「小牧市新たな学校づくり推進計画検討委員会（以下、「委員会」という。）」と、市内小中学校の教員等で構成する「小牧市新たな学校づくり推進計画調査検討部会（以下「部会」という。）」の2つの会議体を組織し、検討を進めました。 ・令和5年度は、委員会を3回、部会を2回開催し、児童生徒数の減少と学校施設の老朽化の現状と課題を整理した上で、1学年1学級といったクラス替えができないような小規模校の課題や、小牧市がこれから目指す教育、小牧市における適正規模・適正配置の考え方などについて検討を行いました。		
	会議名	開催日	報告・議題
	第1回委員会	11月20日(月)	(1)新たな学校づくり推進計画の策定について (2)計画(案) 策定の趣旨、小牧市の現状と課題 (3)アンケート調査について
	第1回部会	11月29日(水)	(1)新たな学校づくり推進計画の策定について (2)小規模校の課題 (3)よりよい教育環境をつくるために
	第2回委員会	12月18日(月)	(1)アンケートについて (2)小規模校の課題について (3)よりよい教育環境をつくるために
	第2回部会	12月27日(水)	(1)前回会議のふりかえり (2)小牧市が目指す教育の実現に向けて (3)適正規模・適正配置について
	第3回委員会	2月21日(水)	(1)アンケート調査結果【速報版】について (2)適正規模・適正配置について
	・計画に広く意見を取り入れるため、令和6年1月に、保護者、教職員及び中学生を対象にしたアンケート調査を、インターネットを活用して実施しました。		

点検評価シート（令和5年度実績）

	- アンケートの結果、「学校教育で重視してほしいこと」を問う設問では、保護者や教職員は「主体性や協調性を集団の中で身に付ける機会に恵まれること」が、中学生は「多くの友達ができる環境」が最も多い回答でした。また、「学校の適正配置（学区の見直しや統廃合）を行う場合に心配されること」を問う設問では、「通学距離や通学時間への心配」が最も多い回答でした。 <table><tr><td>アンケート対象者</td><td>回答者数</td><td>回答率</td></tr><tr><td>市内小中学校の保護者</td><td>2,688 人</td><td>約 34%</td></tr><tr><td>市内小中学校の教職員</td><td>579 人</td><td>約 58%</td></tr><tr><td>市内中学生</td><td>3,046 人</td><td>約 74%</td></tr></table> - 総合教育会議において、「児童生徒数の減少等に伴う学校教育の現状と課題について」をテーマに、市長と教育委員会で課題を共有し、今後取り組むべき方向性について、意見交換を行いました。 <table><tr><td>会議名</td><td>開催日</td><td>議題</td></tr><tr><td>令和5年度小牧市総合教育会議</td><td>1月26日（金）</td><td>児童生徒数の減少等に伴う学校教育の現状と課題について</td></tr></table> - 検討状況について、市ホームページに随時掲載し、情報発信に努めました。また、令和6年3月号の広報こまきより、新たな学校づくりに関する連載記事を掲載することとしました。	アンケート対象者	回答者数	回答率	市内小中学校の保護者	2,688 人	約 34%	市内小中学校の教職員	579 人	約 58%	市内中学生	3,046 人	約 74%	会議名	開催日	議題	令和5年度小牧市総合教育会議	1月26日（金）	児童生徒数の減少等に伴う学校教育の現状と課題について
アンケート対象者	回答者数	回答率																	
市内小中学校の保護者	2,688 人	約 34%																	
市内小中学校の教職員	579 人	約 58%																	
市内中学生	3,046 人	約 74%																	
会議名	開催日	議題																	
令和5年度小牧市総合教育会議	1月26日（金）	児童生徒数の減少等に伴う学校教育の現状と課題について																	
課 題	- これまでの検討で、児童生徒数の減少や学校施設の老朽化に起因する様々な課題の解消には、学校の再編が必要であると考え、ため、「小牧市新たな学校づくり推進計画」の検討の中で、小中学校の再編の考え方についても整理していく必要があります。 - 学校の再編は、児童生徒とその保護者、また地域の方々に大きな影響があることから、より丁寧に説明する必要があります。																		
今後の取組 の 方 向 性	「小牧市新たな学校づくり推進計画」の令和6年9月頃の策定を目指し、引き続き検討を進めます。 - 市民の理解を深めるため、検討状況について、ホームページや広報こまきを通じて広く周知するとともに、タウンミーティングなど機会を捉えて情報発信を行います。																		

点検評価シート（令和5年度実績）

評 価 委 員 の 意 見 等	・ 学校の再編は地域社会への影響が多いため、丁寧な説明と意見の聴取を行いながら、進めていっていただきたいです。 ・ 学校再編はセンシティブなことであるので、十分に対話を尽くしてください。また、空き校舎の利用計画については、先進的な取組を先取りしながら、公共財産が有効に活用されるように配慮してください。 ・ 教育環境整備について、計画段階から市民参加で進めていくことは、多様な発想や意見を取り入れることができ、効果的な整備ができると考えます。 ・ 市で学校区の地域分けをするのではなく、近隣3校から選択するなど、行きたい学校に行くことができる選択制を取れば良いと思います。これにより、学校の質・サービスの向上や、通学面では「こまくる」を活用することで、地域の活性化が期待できます。
----------------------------	---

基本目標4 家庭・地域・学校との連携による教育の推進

- ☞ 家庭教育・地域教育を大切にし、地域ぐるみでの教育、子育て、青少年健全育成活動を展開します。
- ☞ 家庭・地域・学校の連携を強化し、学校運営への多様な人材の参画・協力を推進します。

具体的な取組 (教育振興基本計画の施策番号)	教育・保育の質の向上（施策16）	担当課
		幼児教育・保育課
内 容	第一幼稚園の公開保育、小牧市幼年期教育連携推進会議を通じ幼稚園、認定こども園、保育園、小中学校の連携を推進し、幼児期からの発達過程に配慮した心の教育の充実に努めます。	
達 成 状 況	・年2回の会議において、各園、各校の取組を話し合い、円滑な接続に向けて取り組んでいることを確認しました。また、市や各園各校間において、行事を共有し、日常的に参加、誘い合えるような交流の方法について話し合いました。 ・第一幼稚園の公開保育での子どもの姿から、子どもたちの「やりたい」という気持ちを育てることが幼児教育そのものであり、小学校以降の教育にどう繋げていくかについて意見交換をしました。 ・第2回幼年期教育研修会では、幼稚園、保育園、小学校、中学校の保育士や教員が集まり、地域ごとに9つのグループにわかれ、本市の目指す人間像について、各園各校の子どもの育ちを語り、本市において幼保小中の目指す子どもの姿、そのために各園各校で出来ること、市で行って欲しいことを話し合い、考えをまとめ、発表しました。今後も、各園各校での交流を深め、お互いを知り、幼保小中の円滑な接続に向けて取り組んでいきたいという思いを共有しました。	
	幼年期教育連携推進会議 (2回開催:6月、1月)	6月 ○意見交換 1月 ○第一幼稚園の公開保育の振り返り ○今年度の活動のまとめと次年度への提言
	第1回幼年期教育研修会(8月) 『幼児教育と学校教育の連携』	幼稚園 10 保育園 20 小中学校 29 その他 0 計 59 名
	第一幼稚園公開保育(10月) 『興味・関心から深い学びへ(3年次)』	幼稚園 10 保育園 20 小学校 12 中学校 9 その他 6 計 57 名
	第2回幼年期教育研修会(2月) テーマ『市単位での架け橋プログラムの取り組みについて』	幼稚園 12 保育園 24 小学校 15 中学校 9 その他 0 計 60 名

点検評価シート（令和5年度実績）

課 題	子どもたちが未来社会を切り拓くための資質、能力を共有し、連携、協働して育んでいくために、引き続き関係機関が互いに理解を深める必要があります。そのためには、顔の見える関係性を作り、子どもの姿から育ちや学びについて語り合い、お互いを知るための交流の機会が大切です。
今後の取組の方向性	- 幼稚園、認定こども園、保育園、小学校、中学校が連携をすることが重要であるため、講師の招へいや事例検討を通して、子どもたちの育ちや学びについての理解を深めていく必要があります。 - また、幼稚園、認定こども園、保育園における遊びの中での学びを、どのように小学校、中学校における学習の中での学びにつなげていくのか、あわせて、園と学校がお互いを知るための交流ができるよう、具体的な実践方法について考えていきます。 - 今後も関係機関に対し積極的に周知を行い、会議や研修への参加を促していきます。
評価委員の意見等	- 幼稚園、認定こども園、保育園、小学校、中学校の連携のために公開保育の機会は有効と思われます。今後も充実させていくことが望まれます。 - ワークショップ研修等でつながりづくりも意識しながら引き続き取り組んでください。 - 関係機関との連携と、意見交換が図れる機会の拡充は、教育の質の向上に最も効果的と考えます。しかし、実務が忙しい中での研修会となりますので、その時間配分、兼ね合いが課題です。 - 小中学校や地域などのカテゴリーで分けるのではなく、小牧市全体で何をすべきか考える必要があると思います。子どもの学びたいことは何か、親が学ばせたいことは何か、子どもや親に足りないことは何か、を見つける会議が必要と考えます。

点検評価シート（令和５年度実績）

具体的な取組 (教育振興基本計画の施策番号)	放課後子ども総合プラン（施策１８）	担当課		
		こども政策課		
内 容	放課後児童クラブと放課後子ども教室が連携して、共通プログラムを企画・運営する仕組みづくりを推進します。令和３年度に市内２小学校で実施したモデル事業の評価・検証を踏まえ、令和４年度は６校、令和５年度は１２校で実施し、令和６年度に全校実施できるよう事業を進めます。			
達 成 状 況	・市内１２小学校で合同の体験活動を実施しました。			
	学校名	年間実施回数 主な内容	参加人数（延べ）	
			放課後子ども教室	児童クラブ
	小牧小学校	６回 折り紙、大道芸、観劇	127 人	136 人
	村中小学校	４回 防災教室、大道芸、忍者ランド	146 人	79 人
	三ツ渕小学校	７回 スポーツ、己書、大道芸	135 人	64 人
	味岡小学校	６回 交通安全教室、大道芸、すまいる祭り	98 人	278 人
	篠岡小学校	７回 読みきかせ、バルーンアート、ダンス	137 人	185 人
	米野小学校	５回 工作、シナプソロジー、大道芸	119 人	206 人
	一色小学校	６回 レクリエーション、盆踊り、大道芸	92 人	128 人
	小牧原小学校	４回 防災教室、ボトルシップ	107 人	82 人

点検評価シート（令和 5 年度実績）

	<table><tr><td>本庄小学校</td><td>4 回 防災教室、 色彩心理講座 リコーダーコンサ ート</td><td>65 人</td><td>49 人</td></tr><tr><td>陶小学校</td><td>6 回 運動遊び、 サイエンス、 たこあげ</td><td>143 人</td><td>44 人</td></tr><tr><td>光ヶ丘小学校</td><td>4 回 防災教室、 万華鏡づくり、 読み聞かせ</td><td>59 人</td><td>92 人</td></tr><tr><td>大城小学校</td><td>4 回 集団遊び、 大道芸、 太鼓を体験しよう</td><td>65 人</td><td>77 人</td></tr></table>	本庄小学校	4 回 防災教室、 色彩心理講座 リコーダーコンサ ート	65 人	49 人	陶小学校	6 回 運動遊び、 サイエンス、 たこあげ	143 人	44 人	光ヶ丘小学校	4 回 防災教室、 万華鏡づくり、 読み聞かせ	59 人	92 人	大城小学校	4 回 集団遊び、 大道芸、 太鼓を体験しよう	65 人	77 人
	本庄小学校	4 回 防災教室、 色彩心理講座 リコーダーコンサ ート	65 人	49 人													
	陶小学校	6 回 運動遊び、 サイエンス、 たこあげ	143 人	44 人													
	光ヶ丘小学校	4 回 防災教室、 万華鏡づくり、 読み聞かせ	59 人	92 人													
	大城小学校	4 回 集団遊び、 大道芸、 太鼓を体験しよう	65 人	77 人													
・小牧市放課後子ども総合プラン運営委員会において令和 5 年度事業の評価・検証を行い令和 6 年度以降の事業計画を検討しました。 <table><tr><td>回数</td><td>実施日</td><td>主な議題等</td></tr><tr><td>第 1 回</td><td>7 月 6 日（木）</td><td>放課後子ども総合プランについて 実施校のスケジュールについて 関係者アンケートについて</td></tr><tr><td>第 2 回</td><td>2 月 20 日（火）</td><td>活動及びアンケート報告について 令和 6 年度事業について</td></tr></table> ・令和 6 年度は令和 5 年度実施 12 校に加え、小牧南・北里・小木・桃ヶ丘小学校を加えた全校で行うこととしました。	回数	実施日	主な議題等	第 1 回	7 月 6 日（木）	放課後子ども総合プランについて 実施校のスケジュールについて 関係者アンケートについて	第 2 回	2 月 20 日（火）	活動及びアンケート報告について 令和 6 年度事業について								
回数	実施日	主な議題等															
第 1 回	7 月 6 日（木）	放課後子ども総合プランについて 実施校のスケジュールについて 関係者アンケートについて															
第 2 回	2 月 20 日（火）	活動及びアンケート報告について 令和 6 年度事業について															
課 題	・従事者や活動場所の現在の確保状況では、国が示すような、すべての児童が放課後子ども総合プランに参加できる環境とすることは困難です。事業の円滑な実施のためには、現在の従事者だけでなく、外部のボランティア、有償の講師など様々な従事者を継続的に確保する仕組みづくりが必要です。																

点検評価シート（令和5年度実績）

今後の取組 の方向性	・令和6年度事業の評価・検証を通じて、令和7年度からの事業計画を検討します。 ・「放課後子ども総合プランコーディネーター」を中心に、事業運営の改善を図りながら、どの学校も無理なく進められるようサポートしていきます。 ・児童館では多種多様に創作活動や講師を招いての活動を行っていますので、児童館と積極的に連携していきます。 ・全校実施となるので、活動内容・講師・放課後子ども教室と児童クラブ従事者との連携などについて、小学校間の情報共有を進めていきます。
評価委員 の意見等	・今後も保護者・児童のニーズや関心に基づくプログラムの充実を期待します。 ・スタッフやプログラムの質の保証を意識しながら取り組んでください。 ・放課後の子どもの居場所づくりとして、児童クラブに加えて放課後子ども教室の拡充とスタッフの皆さんの努力には頭が下がります。親が安心して仕事に従事できるためにも、放課後の子どもたちの居場所づくりの充実に努めてください。 ・放課後の子どもたちにとって、安全・安心に過ごせて、自らの課題も解決できる時間の確保に関しては、児童クラブや放課後子ども教室などが重要な居場所となります。多くの児童生徒が参加されているようですので、活動内容の充実と合わせて、必要な人員の確保が課題となります。 ・児童クラブと放課後子ども教室の連携強化は必要であるため、継続して取り組んでください。学校の授業で不足していることや親子が必要としていることなどのニーズをつかんでの実施を望みます。 ・地域コーディネーターをやっておりますので、放課後子ども教室も担当しております。ボランティアではなく、市より謝礼をいただいているとはいえ、正直楽なことではありません。誰かを楽しませたり喜ばせたりすることは、そもそも楽ではありませんが、そんな大人の姿も子どもたちはしっかり見ているのだと、この活動を通して感じております。

基本目標5 豊かな人生を支える、生涯学べるまちづくり

- ☞ 誰もが、学びたいときに学びたいことを学ぶことができる環境を整備します。
- ☞ 自らの学びを社会や地域に還元し役立てるようにするとともに、互いに学びあい育ちあう関係を創出します。

具体的な取組 (教育振興基本計画の施策番号)	市民講座の実施（施策 2 1）		担当課	
			文化・スポーツ課 味岡・東部・北里市民センター	
内 容	公募により市民が主体となつて行う市民企画講座を実施するとともに、多様な分野の学習機会を提供するために、各公民館の企画による市民講座を実施します。			
達 成 状 況	・下記の講座を実施しました。			
	【公民館企画講座】			
	公民館名 (講座数)	回数	内容	延べ 受講者数
	市公民館等 (15 講座)	22 回	家康のお宝探訪、動物福祉、コマ撮りアニメ、イラストレーション、源氏物語、相続、認知症予防、Zoom 主催者マスター、伝える極意、苔ラマ作り、DIY、蜜ろう工作（午前、午後）、グリーンライフ（①雑草対策、②野菜づくり）	586 人
	東部市民センター (8 講座)	8 回	身だしなみ、スマホ操作体験、製菓料理、己書	101 人
	味岡市民センター (3 講座)	9 回	パーソナルカラー、ヨガ、韓国料理	154 人
	北里市民センター (4 講座)	4 回	こぎん刺し、水墨画、仏画、気功	7 人
	※ゆうゆう学級、天文講座除く			
	【市民企画講座】			
	公民館名 (講座数)	回数	内容	延べ 受講者数
市公民館等 (21 講座)	105 回	プログラミング、徳川家康の実像、絵手紙、水墨画、クラフトバンド、ブーケピアス、カリグラフィー、ウクレレ、イタリアオペラ、骨盤底筋ケアヨガ、エクササイズ、健康教室、フランス語、郷土の歴史、セカンドキャリア、アサーション、オカリナ、歌唱、足の健康、ピラティス、インテリアコーディネート	1709 人	
東部市民センター (7 講座)	26 回	己書、フラダンス、笑顔トレーニング、ギター、ダンス、アイシングクッキー、着付け	523 人	
(次の表に続く)				

点検評価シート（令和5年度実績）

	(前の表に続き)			
	味岡市民センター (7 講座)	33 回	リトミック、絵手紙、パン、整理収納、フォークダンス、背骨コンディショニング、発酵食	416 人
	北里市民センター (6 講座)	26 回	論語、ペンと小筆、押し花、断捨離、歌、ガラスアート	403 人
◆市民講座年度別実績				
項目		R5 年度	R4 年度	R3 年度
市公民館等	延べ受講者数	2,251 人	1,698 人	1,819 人
	講座数	36 講座	31 講座	36 講座
東部市民センター	延べ受講者数	624 人	536 人	456 人
	講座数	15 講座	14 講座	9 講座
味岡市民センター	延べ受講者数	570 人	677 人	363 人
	講座数	10 講座	10 講座	8 講座
北里市民センター	延べ受講者数	410 人	406 人	362 人
	講座数	10 講座	8 講座	6 講座
課 題	・全体的に受講者の年齢が高い傾向が続いていますが、講座内容・実施日によっては若い方の参加者も見込まれるため、幅広い年代の方が興味をもっていただける講座の選定や若い世代の方にも認知度を高めていく必要があります。 ・WEB 申込が浸透し、気軽に申し込む人が増えた反面、多くの申込者があり、抽選になった講座で欠席が多い傾向があります。「思っていた内容と違った」という理由も見受けられるため、講座の内容が正しく伝わる工夫が必要です。 ・オンライン講座に慣れた受講者も増えていますが、機器やアプリを使いこなせていない受講者もいるため、使い方をレクチャーする機会が必要です。 ・コロナ禍がきっかけで活動が低迷した市内の生涯学習団体から市民講座開催の相談が増えています。			
今後の取組の方向性	・親子講座や若い世代のニーズに合わせた講座を開設すると共に、参加しやすい日程や環境（託児等）にも配慮します。また、SNS などの情報ツールの便利な機能、動画添付やハッシュタグ等を効果的に使って、若い世代に届く広報を行っていきます。 ・「情報ガイドこまなび」やチラシ・ポスターの説明文や写真を、受講者目線で考え、わかりやすいものにします。 ・機器等の使い方の相談にのることやZoomの使い方講座を紹介するなどサポートを行います。 ・市内の生涯学習団体や文化団体等と連携し、地域にも広げていけるような企画を考えます。			

点検評価シート（令和５年度実績）

評 価 委 員 の 意 見 等	・ 市民講座の講座数と参加者数は増加しており、今後も幅広い企画を提供していくことが望まれます。 ・ ＳＮＳなどでのショート動画による講座内容の周知なども検討してください。 ・ 市民講座の中に、デジタルネットワーク社会における情報リテラシーも加えていただければと思います。公共図書館は地域の情報基盤ですので、情報リテラシーは多様な資料を市民に提供する図書館が最適と考えます。そのため、市民講座を開催する場合は、図書館主催か共催・連携の方がいいと思います。 ・ 継続して活動ください。ＷｅｂやＹｏｕＴｕｂｅなどで見ることができる講座は参加しにくいいため、今よりもニーズの収集が必要と考えます。 ・ 自己啓発や、孫・子と繋がるツールを学ぶ講座が必要です。
----------------------------	--

点検評価シート（令和５年度実績）

具体的な取組 （教育振興基本計画の施策番号）	公民館等の生涯学習施設の環境整備 （施策２１）	担当課
		文化・スポーツ課 味岡・東部・北里市民センター
内 容	施設老朽化等に対応し、施設設備の改修を行います。また、文化活動や学びの拠点である市公民館の展示場等について、展示機能の充実など多様なニーズに対応できるよう、改修・更新工事を行います。	
達 成 状 況	・市公民館は昭和４６年、中部公民館は昭和５６年に建築され、老朽化が進んでいるため、施設を快適に利用していただけるよう設備などの改修工事を行いました。 市公民館 【市公民館大規模改修工事】 ・老朽化が進む市公民館トイレ、講堂舞台機構、講堂天井等の改修工事を行いました。また、展示場・講堂の展示機能の拡充を図るとともに、第２音楽スタジオの設置工事を行いました。（令和６年度も継続） ・隣接する市民会館と合わせ、一体化した整備を行いました。 中部公民館 【中部公民館冷温水発生機等更新工事】 ・中部公民館及びプラネタリウムの冷温水発生機、冷却塔等の更新工事を行いました（令和６年度も継続）。また、館内の保育室の個別空調化工事を行いました。 味岡市民センター 【冷温水発生機更新工事】 ・老朽化していた冷温水発生機（１・２・４号機）の更新工事の設計を行いました。 東部市民センター 【外壁改修工事（２期工事）】 ・老朽化に伴いタイル剥離の恐れがある外壁を改修する工事を行いました。	

点検評価シート（令和 5 年度実績）

課 題	・小牧市公共施設長寿命化計画に基づき、目標耐用年数まで快適に施設を利用するため、また、利用者の多様なニーズに対応できるよう計画的に維持修繕を行う必要があります。 ・施設の利便性が向上するよう機能の充実についても検討する必要があります。 ・市公民館の大規模改修工事は令和 5 年 11 月から 1 年間程度行われるため、利用団体の活動場所の確保について、工事に支障が出ない範囲でできる限り配慮する必要があります。
今後の取組の方向性	・市公民館を安全・安心、また、快適に利用していただけるよう令和 5 年度より継続して令和 6 年度に大規模改修工事を行っていきます。 ・市公民館大規模改修工事の工程等については、利用団体の日頃の活動等に支障が出ないようにできる限り配慮し、工事業者と調整していきます。
評価委員の意見等	・市公民館の改修作業が進んでいると思いますが、新しく生まれ変わる施設が、以前より充実した施設になるよう楽しみにしています。 ・市民の安全・安心確保のために、計画的に進めてください。市公民館の工事の間、代替的な活動拠点も考慮してください。 ・継続して取り組んでください。

点検評価シート（令和5年度実績）

具体的な取組 (教育振興基本計画の施策番号)	生涯学習を推進する人材育成講座の開催 (施策22)	担当課 文化・スポーツ課												
内 容	学びの成果を地域活動などにつなぐため、人材育成のための講座を開催し、地域の生涯学習活動のきっかけづくりに取り組みます。													
達 成 状 況	・下記の講座を実施しました。 【Zoom主催者マスター講座】 <table><tr><td>開催日</td><td>9月3日(日)</td></tr><tr><td>会場</td><td>市公民館 視聴覚室</td></tr><tr><td>受講者数</td><td>9人</td></tr></table> 【人前でもわかりやすく伝える極意】 <table><tr><td>開催日</td><td>2月11日(日)</td></tr><tr><td>会場</td><td>市民交流テラス ワクティブこまき</td></tr><tr><td>受講者数</td><td>35人</td></tr></table> ※その他ワクティブこまき主催による連携講座を4回開催 ・ボランティアメンバーを集めるには？ ・小牧市内でイベント集客・活動の告知をする知恵を集めよう！ ・スムーズな話し合いの方法を学ぼう！ ・団体のビジョン・ミッションを言葉にしよう！		開催日	9月3日(日)	会場	市公民館 視聴覚室	受講者数	9人	開催日	2月11日(日)	会場	市民交流テラス ワクティブこまき	受講者数	35人
開催日	9月3日(日)													
会場	市公民館 視聴覚室													
受講者数	9人													
開催日	2月11日(日)													
会場	市民交流テラス ワクティブこまき													
受講者数	35人													
課 題	・人材育成のための講座でしたが、単にZoomの使い方を覚えたいという理由で受講された方が見受けられました。 ・学びに成果を地域活動に結び付ける機会の提供が必要です。													
今後の取組 の 方 向 性	・人材育成という趣旨を募集時に明確にするとともに、効果的な講座内容を検討します。 ・学んだ成果を地域活動で活かしていけるよう、ワクティブこまきと連携して活動の機会や場所の創設・橋渡しに努めます。													
評 価 委 員 の 意 見 等	・Zoomの使い方は、主催者向け講座とは別に開くといいかもしれません。 ・本来の意図が伝わりにくいため、【Zoom主催者マスター講座】は名称変更を検討する必要があると思います。 ・趣旨と対象者がわかりにくい面があると思われるため、どういう人材を育成したいのか、それに対応した講座内容を考慮する必要があると考えます。 ・オンライン研修に力をいれてください。													

点検評価シート（令和５年度実績）

具体的な取組 (教育振興基本計画の施策番号)		担当課																																		
地域学習活動の推進（施策２２）		文化・スポーツ課																																		
内 容	コロナ禍で停滞していた地域学習活動のリスタートを図るため、地域３あい事業の実施や地域協議会等との連携をとおして、地域学習活動の活性化を図ります。																																			
達 成 状 況	・補助金を地区運営委員会に交付し、「ふれあい」「まなびあい」「ささえあい」の３あい精神で、地区の集会所や会館を活用して活動や学びを行い、地域ぐるみでの子育てやお年寄りを支えることができる地域づくりを目指しました。 【実施状況】 <table><tr><td>補助金額</td><td>区数</td></tr><tr><td>20 万円</td><td>35</td></tr><tr><td>10 万円</td><td>15</td></tr><tr><td>6 万円</td><td>2</td></tr><tr><td>合計</td><td>52</td></tr></table> 【実施内容】 <table><tr><td>分野</td><td>内容</td></tr><tr><td>交流</td><td>三世代交流・秋まつり</td></tr><tr><td>環境美化</td><td>花いっぱい運動、美化活動</td></tr><tr><td>健康</td><td>ラジオ体操、ウォーキング大会</td></tr><tr><td>教養</td><td>歴史発見講座</td></tr><tr><td>伝統文化</td><td>祭囃子、太鼓の練習</td></tr><tr><td>防災</td><td>地区防災訓練、安否確認訓練</td></tr><tr><td>社会見学</td><td>博物館・史跡見学</td></tr><tr><td>スポーツ</td><td>各種スポーツ大会</td></tr><tr><td>農業</td><td>田植え、稲刈り、野菜づくり</td></tr><tr><td>福祉</td><td>敬老会</td></tr><tr><td>防犯</td><td>防犯パトロール</td></tr></table>		補助金額	区数	20 万円	35	10 万円	15	6 万円	2	合計	52	分野	内容	交流	三世代交流・秋まつり	環境美化	花いっぱい運動、美化活動	健康	ラジオ体操、ウォーキング大会	教養	歴史発見講座	伝統文化	祭囃子、太鼓の練習	防災	地区防災訓練、安否確認訓練	社会見学	博物館・史跡見学	スポーツ	各種スポーツ大会	農業	田植え、稲刈り、野菜づくり	福祉	敬老会	防犯	防犯パトロール
補助金額	区数																																			
20 万円	35																																			
10 万円	15																																			
6 万円	2																																			
合計	52																																			
分野	内容																																			
交流	三世代交流・秋まつり																																			
環境美化	花いっぱい運動、美化活動																																			
健康	ラジオ体操、ウォーキング大会																																			
教養	歴史発見講座																																			
伝統文化	祭囃子、太鼓の練習																																			
防災	地区防災訓練、安否確認訓練																																			
社会見学	博物館・史跡見学																																			
スポーツ	各種スポーツ大会																																			
農業	田植え、稲刈り、野菜づくり																																			
福祉	敬老会																																			
防犯	防犯パトロール																																			
課 題	・高齢者が多くなっており活動の担い手が少なくなってきました。 ・コロナ禍で活動休止し、コロナ禍前の活動状況に戻っていない地域もみられます。																																			
今後の取組 の 方 向 性	・参加者増加につながるような発信方法の紹介や他地区との協働事業の事例をお伝えし、担い手不足の解消につながるよう努めます。 ・地域学習活動の必要性を伝え、補助制度を使いやすくするなど活動の活性化に努めます。																																			

点検評価シート（令和5年度実績）

評 価 委 員 の 意 見 等	・維持・継続が大切だが、難しい事業だと考えます。 ・子育て世代、高齢者、それぞれ属性が異なりますが、社会の変化とともに興味関心が変化していますので、変化に合わせた事業と見直しが必要だと考えます。また、小牧市特有の文化・歴史に関することについては常に関心の高さが示されていると思いますので、そうした講座は社会の変化と関係なく開催してほしいです。 ・参加者と発信者が不足していく中で、補助金目当てとならぬよう、実施目的から外れない活動をしていただきたいと思います。
----------------------------	--

点検評価シート（令和 5 年度実績）

具体的な取組 (教育振興基本計画の施策番号)	レファレンスサービスの充実（施策 2 3）	担当課								
		図書館								
内 容	レファレンスサービスを継続実施するとともに、その有用性を P R する取組を行います。また、利用者が自らレファレンス事例を検索し、関連本を予約できるシステムを導入し、順次、レファレンス事例の蓄積を進めます。									
達 成 状 況	・令和 5 年度のレファレンス件数は、13, 202 件でした。 【実績】 レファレンス件数									
	<table><tr><td>年度</td><td>件数</td></tr><tr><td>令和 3 年度</td><td>14, 002 件 (うちメールレファレンス : 35 件)</td></tr><tr><td>令和 4 年度</td><td>14, 474 件 (うちメールレファレンス : 19 件)</td></tr><tr><td>令和 5 年度</td><td>13, 202 件 (うちメールレファレンス : 13 件)</td></tr></table>		年度	件数	令和 3 年度	14, 002 件 (うちメールレファレンス : 35 件)	令和 4 年度	14, 474 件 (うちメールレファレンス : 19 件)	令和 5 年度	13, 202 件 (うちメールレファレンス : 13 件)
	年度	件数								
	令和 3 年度	14, 002 件 (うちメールレファレンス : 35 件)								
	令和 4 年度	14, 474 件 (うちメールレファレンス : 19 件)								
令和 5 年度	13, 202 件 (うちメールレファレンス : 13 件)									
・利用者が、自分の調べたいテーマに関する資料や情報にたどり着くための調べ方を案内するリーフレット（パスファインダー）を作成し、図書館・各図書室に設置するとともにホームページに掲載しました。 【実績】 パスファインダー作成件数 : 8 件(郷土 4 件、児童 4 件)										
・図書館ホームページにレファレンス事例集を掲載しました。これにより、利用者がキーワード等で事例を検索することが可能となりました。 【実績】 令和 5 年度掲載件数 : 33 件										
・質の高いレファレンスサービスを提供するため、図書館職員のレファレンスに関する知識習得及びスキルアップを目的として、レファレンス内部研修（月 1 回）を実施しました。										
課 題	・レファレンス利用者に対して迅速かつ丁寧な回答を提供するにあたって、職員間におけるレファレンス事例の集約・共有を継続していくことが必要です。 ・レファレンス事例集の利用促進を図るため、利用者に対して周知が必要です。 ・引き続き、職員のレファレンススキルアップを図る必要があります。									

点検評価シート（令和５年度実績）

今後の取組 の方向性	・職員間における事例の集約・共有を進めることで、回答に係る質の安定と職員の負担軽減を図ります。 ・レファレンス事例集への掲載を積極的に進めるとともに、事例集の周知及び利用促進を図ります。 ・今後も職員のレファレンス研修を実施します。
評価委員 の意見等	・情報提供サービスは、デジタルネットワーク社会の進展以降においても、最も重要な図書館のサービスです。市民の情報要求については、信頼のおける図書館資料とそれをもとにしたレファレンスサービスに期待が高まっています。レファレンス件数は毎年同程度の数値であり、今後、パスファインダーの充実やオンラインデータベースの講座など、PRに努めることで、件数が増える可能性があると考えます。 ・情報の発信は重要ですので、効率性を考えて行ってください。 ・市民が知らないことが多いため、実行している内容の発信を求めます。

点検評価シート（令和5年度実績）

具体的な取組 (教育振興基本計画の施策番号)	こまき市民交流テラス（ワクティブこまき）との連携（施策２４）	担当課 文化・スポーツ課
内 容	ワクティブこまきと連携して、生涯学習をきっかけに、地域活動などへつながる取組を推進します。	
達 成 状 況	・下記の項目を実施しました。	
	項 目	内 容
	人材育成講座の連携開催	小牧市内で市民活動・生涯学習活動を行っている人、これから行おうとしている人を対象に活動を活性化・スキルアップを図るための講座を開催
	こまき団体情報ガイドブックの活用	市内を活動拠点とする生涯学習団体や市民活動団体の総合データベース。ワクティブこまきが運営しているが、団体情報の収集や市民への情報提供を各公民館でも行っている。
	講師情報の共有	生涯学習市民講師データの共有
	こまなびフェスティバルへの参加	ワクティブこまきのこまなびフェスティバルに参加
課 題	・市民活動団体と生涯学習団体に加えて地域団体（各小中学校区地域協議会等）の関わりを活発にし、団体同士が連携して地域活動の機会を増やし、活性化していく必要があります。 ・こまき団体情報ガイドブックが市民に活用されるために、認知度をアップする工夫が必要です。	
今後の取組の方向性	・団体同士が意見交換をしたり、情報共有をできるような場づくりに取り組みます。 ・こまき団体情報ガイドブックの活用促進のために、周知や新規団体の登録の働きかけを行います。 ・地域のこれからの課題に向き合う地域活動に向け、相互に応援し合うつながりを作り、課題と向き合う人をワクティブこまきとともに支援します。	
評価委員の意見等	・市民の生涯学習を進展していくことが目的の各種団体の交流、意見交換の場が増えることで、連携による相乗効果が見込まれます。 ・団体同士の交流が進むことを期待していますが、本当に必要な団体なのか、惰性的に活動している団体はないかの見極めは必要だと思います。	

基本目標6 誰もが参加できるスポーツ活動の展開

- ④ 運動やスポーツを通して、あらゆる活動の土台となる基礎体力を育みます。
- ④ 生涯にわたって誰もがスポーツを楽しむことができる機会や環境をつくります。

具体的な取組 (教育振興基本計画の施策番号)		担当課			
スポーツ教室の開催（施策２５）		文化・スポーツ課			
内 容	小牧市スポーツ協会や加盟競技団体等と連携して市民スポーツ教室を開催し、広く市民がスポーツに親しみながら健康や体力を増進する機会を提供します。				
達 成 状 況	・ 小牧市スポーツ協会等と連携して、各種スポーツ教室を開催し、市民がスポーツに親しむ機会を提供しました。				
	・ 小牧市スポーツ協会の公式LINEを立ち上げ、スポーツ教室等の情報提供に努めました。				
	・ スポーツ推進委員の活動状況について、スポーツ推進委員だよりを年１回発行し、全区回覧を行いました。				
		【スポーツ協会主催】	R5 延べ 参加人数	R4 延べ 参加人数	R3 延べ 参加人数
	1	テニス（前期）	85	135	中止
	2	テニス（後期）	132	109	中止
	3	卓球（前期）	248	204	中止
	4	卓球（後期）	250	211	中止
	5	バドミントン（前期）	169	93	中止
	6	バドミントン（後期）	118	126	中止
	7	ランニング	11	中止	38
	8	ミニテニス	40	-	-
		【市主催】			
	1	いきいきシルバースポーツ学級	430	422	192
	2	ノルディックウォーク講習会（1）	18	33	中止
	3	ノルディックウォーク講習会（2）	23	23	31
		合計	1,524	1,356	261
	※ミニテニス教室は R5 からの新規事業				

点検評価シート（令和５年度実績）

課 題	・定員に満たない教室は教室内容を再考する必要があります。 ・コロナ禍が開けて徐々にスポーツをする機会が増えているため、一層市民等に向けてスポーツをする機会を提供していく必要があります。
今後の取組の方向性	・ランニング教室は近年参加者数が少なかったため、令和６年度はミニトランポリン教室に変更します。 ・若年層や新規参加者を獲得するため、LINEなどのSNSを活用し、スポーツ教室の情報を市民へ発信していきます。また、参加者のニーズを把握し、開催時期や時間、種目等を検討します。
評価委員の意見等	・ランニングよりもミニトランポリンに切り替えたことは、遊びの要素も入っており、参加者増が期待できると思います。 ・高齢者向けのスポーツ教室も増やしていただければと思います。 ・市民総スポーツを目指すスポーツ教室を展開するために必要なことは、市民に分かりやすい募集の仕方をするのだと考えます。そのためには、募集する主催組織（団体）を一本化して、市民の戸惑いを払拭することだと思います。現状はというと、スポーツ教室の主催者が、市とスポーツ協会に分かれています。そこで、その主催者をスポーツ協会に一本化して実施することを提案します。市とスポーツ協会の在り方にも関わるかもしれませんが、市民を優先すれば分かり易さが一番だと考えています。 ・継続的に活動をしていただきたいですが、若年層は「上達する」、年配者は「体を動かす」、未経験者は「スポーツを知る」など、スポーツを実施する目的別で教室を実施する必要性があります。この活動には、専門的なトレーナーが必要です。

点検評価シート（令和５年度実績）

具体的な取組 (教育振興基本計画の施策番号)	地域スポーツ活動の推進（施策２５）	担当課 文化・スポーツ課																																														
内 容	地域スポーツ教室の開催をとおして地域スポーツの活性化を図るとともに、小牧市スポーツ協会と連携してスポーツ振興会等の活動を支援します。																																															
達 成 状 況	・ 各地域スポーツ団体においてスポーツ教室などを実施し、スポーツ機会の提供を行いました。																																															
	<table><tr><td rowspan="2">助成事業 (小牧市スポーツ協会)</td><td colspan="2">R5</td><td colspan="2">R4</td></tr><tr><td>実 施 校 区数</td><td>延べ参加 人数</td><td>実施校 区数</td><td>延 べ 参 加人数</td></tr><tr><td>レクリエーションスポーツ 普及・振興事業</td><td>8</td><td>919</td><td>8</td><td>1,012</td></tr><tr><td>指定地域間で行われる交流・交歓大会事業</td><td>4</td><td>261</td><td>4</td><td>225</td></tr><tr><td>広報活動事業</td><td>6</td><td>-</td><td>6</td><td>-</td></tr><tr><td>地域スポーツ活性事業</td><td>10</td><td>3,404</td><td>5</td><td>738</td></tr><tr><td>ラジオ体操普及・推進事業</td><td>4</td><td>2,937</td><td>4</td><td>2,824</td></tr><tr><td>トータルスポーツ教室事業</td><td>5</td><td>4,011</td><td>4</td><td>2,753</td></tr><tr><td>合計</td><td>37</td><td>11,532</td><td>31</td><td>7,552</td></tr></table>				助成事業 (小牧市スポーツ協会)	R5		R4		実 施 校 区数	延べ参加 人数	実施校 区数	延 べ 参 加人数	レクリエーションスポーツ 普及・振興事業	8	919	8	1,012	指定地域間で行われる交流・交歓大会事業	4	261	4	225	広報活動事業	6	-	6	-	地域スポーツ活性事業	10	3,404	5	738	ラジオ体操普及・推進事業	4	2,937	4	2,824	トータルスポーツ教室事業	5	4,011	4	2,753	合計	37	11,532	31	7,552
	助成事業 (小牧市スポーツ協会)	R5		R4																																												
		実 施 校 区数	延べ参加 人数	実施校 区数	延 べ 参 加人数																																											
	レクリエーションスポーツ 普及・振興事業	8	919	8	1,012																																											
	指定地域間で行われる交流・交歓大会事業	4	261	4	225																																											
	広報活動事業	6	-	6	-																																											
	地域スポーツ活性事業	10	3,404	5	738																																											
	ラジオ体操普及・推進事業	4	2,937	4	2,824																																											
	トータルスポーツ教室事業	5	4,011	4	2,753																																											
合計	37	11,532	31	7,552																																												
※指定地域間で行われる交流・交歓大会事業は、4 地域に分けて実施。 (本庄・味岡・一色)、(篠岡、桃ヶ丘、陶、光ヶ丘、大城)、(小牧原・三ツ渕・小牧・村中)、(小牧南・米野・北里)																																																
<table><tr><td rowspan="2">委託事業（市）</td><td colspan="2">R5</td><td colspan="2">R4</td></tr><tr><td>実 施 校 区数</td><td>延べ参加 人数</td><td>実施校 区数</td><td>延 べ 参 加人数</td></tr><tr><td>地域スポーツ教室</td><td>15</td><td>1,390</td><td>12</td><td>1,194</td></tr><tr><td>新体力テスト</td><td>-</td><td>48</td><td>-</td><td>39</td></tr><tr><td>16 小学校区スポーツ交流大会</td><td>-</td><td>92</td><td>-</td><td>96</td></tr><tr><td>合計</td><td>15</td><td>1,530</td><td>12</td><td>1,329</td></tr></table>				委託事業（市）	R5		R4		実 施 校 区数	延べ参加 人数	実施校 区数	延 べ 参 加人数	地域スポーツ教室	15	1,390	12	1,194	新体力テスト	-	48	-	39	16 小学校区スポーツ交流大会	-	92	-	96	合計	15	1,530	12	1,329																
委託事業（市）	R5		R4																																													
	実 施 校 区数	延べ参加 人数	実施校 区数	延 べ 参 加人数																																												
地域スポーツ教室	15	1,390	12	1,194																																												
新体力テスト	-	48	-	39																																												
16 小学校区スポーツ交流大会	-	92	-	96																																												
合計	15	1,530	12	1,329																																												
※地域スポーツ教室は各小学校区の地域スポーツ団体に委託。 ※新体力テスト、16 小学校区スポーツ交流大会は小牧市スポーツ推進委員連絡協議会へ委託。																																																

点検評価シート（令和5年度実績）

課 題	・地域のスポーツ教室への参加者を増やしていく必要があります。 ・誰でも気軽にできるニュースポーツを地域へ普及させていく必要があります。
今後の取組の方向性	・参加者数の拡大に向け各校区でのスポーツ教室について、LINEを活用した情報周知の仕方を検討します。 ・地域スポーツ団体とスポーツ推進委員等が連携して、ニュースポーツの普及を図るなどスポーツを実施する機会を提供し、地域スポーツの推進を図ります。
評価委員の意見等	・LINEの活用などで、市民のスポーツへの関心が高まるような情報発信を期待します。 ・スポーツを通じた地域住民の交流は、地域コミュニティの進展にもつながりますので、PRに努めて、多くの方に周知できるようにしてください。 ・地域スポーツ団体（各スポーツ振興会など）や学校開放委員会などの連携によって、スポーツを通じた地域コミュニティが推進されています。そして、現在では、地域協議会がその一翼を担ってきていると思っています。今後は、それぞれの組織がスポーツ活動などを通して、地域の活性化のためにも手を携えて活動されることを期待しています。 ・継続的に活動をしていただきたいですが、参加者の目的に見合った教室が必要であるとともに、子どもたちの無限の未来が広がるように、ニュースポーツの普及に、積極的に取り組んでもらいたいです。また、各スポーツ教室（民間）と連携してもらいたいです。 ・スポーツ振興会委員として、令和5年度の新体力テストに参加させていただきましたが、とても面白かったです。周りにも参加したいという方がみえたので、もう少しPRを工夫したら参加者は増えるだろうなと思いました。

点検評価シート（令和５年度実績）

具体的な取組 (教育振興基本計画の施策番号)	こども対象のスポーツ教室の開催（施策２６）		担当課			
			文化・スポーツ課			
内 容	こどもたちが幅広くスポーツに親しむため、小牧市スポーツ協会や加盟競技団体等と連携し、各種目のスポーツ教室を実施します。					
達 成 状 況	・親子ふれあい体操教室や小牧市スポーツ協会主催のジュニア体操教室などを開催し、子どもたちが楽しくスポーツに親しむ機会を提供しました。					
		【スポーツ協会主催】	R5 延べ 参加人数	R4 延べ 参加人数	R3 延べ 参加人数	
	1	あそび親子運動	58	62	中止	
	2	かけっこ	19	56	中止	
	3	小学生初心者水泳	209	129	145	
	4	ジュニア体操（寺本明日香）（１）	57	59	39	
	5	ジュニア体操（寺本明日香）（２）	53	47	－	
	6	ジュニア体操（寺本明日香）（３）	86	88	－	
	7	ジュニア育成事業	28,397	28,036	17,450	
	8	スポーツクリニック（バレーボール、ソフトボール）	257	518	中止	
		【市主催】				
	1	親子ふれあい体操教室（前期）	380	272	180	
	2	親子ふれあい体操教室（後期）	248	284	135	
	3	わいわいキッズ New スポーツフェスタ	370	400	－	
		合計	30,134	29,951	17,949	
	※ジュニア体操（１）（２）は子どものみ対象。ジュニア体操（３）は親子対象。					
	※R5 のスポーツクリニックはウルフドッグス名古屋・トヨタ車体クインシーズ（バレーボール）、東海理化チェリーブロッサムズ（ソフトボール）にて実施。					
	課 題	・子どもたちにスポーツの楽しさを知ってもらい、継続してスポーツに取り組んでもらう必要があります。				

点検評価シート（令和5年度実績）

今後の取組 の方向性	・教室に参加した子どもたちにジュニア育成活動などの周知を行い、短期的な教室で終わらせることなく継続して運動ができるよう案内していきます。 ・引き続き、加盟競技団体やスポーツ推進委員等と連携し、スポーツ教室が子どもたちにスポーツの楽しさを知ってもらい、スポーツに関心を持ってもらうきっかけの場となるよう努めます。 ・親子ふれあい体操教室は、より参加がしやすいよう、2期10回制から3期8回制に変更します。
評価委員 の意見等	・今後も、子どもがスポーツに親しむ企画を充実させてください。 ・地域部活動の下地となるような取組を期待します。 ・地元の寺本氏の起用なども行っており、子どもたちのスポーツへの関心をより高めていけると考えます。 ・関連団体等との連携を図り、スポーツが苦手な子どもたちも気軽に取り組めるようにしていただければと思います。 ・加盟競技団体とスポーツ推進委員との連携を強化していただき、子どもたちの未来の架け橋になってもらいたいです。貧困層へのアプローチ手段は思考する必要があります。

点検評価シート（令和５年度実績）

具体的な取組 (教育振興基本計画の施策番号)	地域部活動の検討（施策２６）	担当課									
		学校教育課 文化・スポーツ課									
内 容	国・県の動向及び近隣市町の状況等を注視し、本市における部活動の望ましいあり方を検討するとともに、少子化の中でも、将来にわたって小牧市のこどもたちが文化・スポーツに継続して親しむことができる機会を確保するため地域と連携して環境の整備に取り組みます。										
達 成 状 況	・ 学校部活動の地域連携・地域移行を検討するため、小中学校部活動検討委員会（モデル校情報交換会など）を開催しました。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>会議名</th><th>開催日</th><th>議題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小中学校部活動検討委員会モデル校情報交換会</td><td>11月27日(月)</td><td>(1) 令和５年度モデル校の取組について (2) 令和６年度の取組について</td></tr> <tr> <td>小中学校部活動検討委員会</td><td>2月20日(火)</td><td>(1) 令和５年度の取組について (2) 今後の取組について</td></tr> </tbody> </table> ※令和５年度モデル校における成果 ・ 地域連携の一環として「拠点校部活動」に取り組みました。バスケットボール部を設置していない篠岡中学校の生徒が、拠点校である桃陵中学校のバスケットボール部の活動に参加するとともに、夏の中学校大会にも参加することができました。		会議名	開催日	議題	小中学校部活動検討委員会モデル校情報交換会	11月27日(月)	(1) 令和５年度モデル校の取組について (2) 令和６年度の取組について	小中学校部活動検討委員会	2月20日(火)	(1) 令和５年度の取組について (2) 今後の取組について
会議名	開催日	議題									
小中学校部活動検討委員会モデル校情報交換会	11月27日(月)	(1) 令和５年度モデル校の取組について (2) 令和６年度の取組について									
小中学校部活動検討委員会	2月20日(火)	(1) 令和５年度の取組について (2) 今後の取組について									
課 題	・ 生徒数の減少等により学校単位の部活動を維持していくことが困難な状況にあります。 ・ 競技経験のない部活動の指導や休日部活動の指導など教員にとって大きな負担となっています。 ・ 学校部活動の地域連携をどのように進めるか、枠組みを検討する必要があります。 ・ 地域における指導者の量を確保する必要があるとともに、指導者の質を高めていく必要があります。 ・ 活動場所、用具の確保、責任の所在、受益者負担（保険料や指導員の謝礼等）などについて、検討をする必要があります。										
今後の取組の方向性	・ モデル校を小牧中、桃陵中の２校から、小牧西中、篠岡中、光ヶ丘中の３校を加えた５校に拡大し、小牧中、小牧西中の２校、桃陵中、篠岡中、光ヶ丘中の３校のそれぞれのエリアにおいて地域連携を進めていきます。 ・ 部活動検討委員会を開催し、モデル校における取組を基に、地域連携の今後の方向性について検討を進めていきます。										

点検評価シート（令和5年度実績）

評 価 委 員 の 意 見 等	・ 教員の負担を減らすと共に、指導者の育成が喫緊の課題です。 ・ 保護者の送迎などの家庭の負担が過重にならないように検討を進めてください。 ・ 教員の働き方改革の推進により、学校部活動が教員の手から離れることが考えられます。これからの会場は種目ごとの拠点校になると思うが、指導者を少しずつ地域に委ねていくようなになればと思います。もちろん市全体で指導者バンク的な人材を確保し、種目により市内各地に振り分けられるようなになればいいと思います。 ・ 部活動においては、児童生徒の安心・安全を確保しつつ、教育的側面に理解のある地元の指導者の起用が望まれます。 ・ 児童の減少が進むなか、新しい試みは積極的に行ってほしいと思います。チームメイトの数が揃わず、断念することがないように、各校区分けのチームではなく、3校区が合わさったチーム作りの試みなど、子どもの未来の手助けとなる試みを行ってほしいです。 ・ 親として、部活動はやって欲しいと願っております。成長過程において、心と頭、そして身体を健全に動かすことの重要性は今も昔も変わらないと思います。無駄と思えるような時間（練習）や勝敗の厳しさ、チーム、他者への配慮、上下関係でのふるまい、あらゆる要素が学べる場が部活だと思っております。先生方のご負担、拘束時間との兼ね合いで何かいい妥協策あればと思います。例えば、外部コーチやパパコーチへの依頼や、保護者から運営費を集めて運営を続けていただくことなどです。やめるのは簡単、続けることの困難は百も承知ですが、子どもたちに与えられる学びは計り知れないと思います。
----------------------------	---

点検評価シート（令和５年度実績）

具体的な取組 (教育振興基本計画の施策番号)	スポーツ施設の環境整備（施策２８）	担当課
		文化・スポーツ課
内 容	新たな多目的グラウンドを整備することにより、市民がよりスポーツに取り組みやすい環境を整備します。	
達 成 状 況	・ さかき運動場にフットサル及びテニス等の利用ができる多目的コートを２面新設しました。 【施設概要】 場 所：小牧市新小木四丁目地内 コート：フットサル兼テニスコート２面 ゴムチップウレタン弾性舗装（ハードコート） 設 備：ナイター照明８基、防球ネット５m	
課 題	・ 運用開始後に出てくる管理・運営上のトラブルなどを事前に想定し、限られた人数でも円滑な運営ができるよう検討する必要があります。	
今後の取組の方向性	・ 令和６年度の運用開始に向けて、運営する小牧市スポーツ協会と協議しながら事前準備を行います。 ・ 新たな施設を多くの方に利用していただけるようホームページ・広報等での周知を行います。	
評 価 委 員 の 意 見 等	・ スポーツ施設については、安全を確保し、継続的管理運営が可能な方法で実施してください。 ・ スポーツ施設などの公共施設の利用率向上については、その利用料金や使用規則などが関わってくると思います。料金設定については、市の財政事情にも関連することですが、料金設定については、その利用が市民の健康増進や福利厚生のための必要経費として考えた場合、料金を低くすることも可能だと思っています。 ・ 市民や子どもが充実してスポーツが出来る環境づくりに取り組んでください。 ・ 近年、地球温暖化で日中にスポーツがやりにくくなっているため、ナイター設備や体育館にエアコンを設置するなどの施設整備をお願いします。	

基本目標7 市民がともにつくる文化・芸術の振興

- 文化・芸術の鑑賞機会を充実するとともに、市民の創作活動を支援します。
- 市民と様々な文化団体との連携により、文化振興活動を支える体制を整備します。

具体的な取組 (教育振興基本計画の施策番号)	身近で良質な鑑賞機会の充実（施策29）	担当課
		文化・スポーツ課
内 容	こまき市民文化財団と連携し、バリアフリーコンサートやこまぶんフェスタなどの実施により、広く市民に良質な鑑賞機会を提供します。	
達 成 状 況	- 誰もが気軽に文化や芸術に触れることができ、一日を通して楽しめるイベントとして「こまぶんフェスタ 2023 あーとな広場〜かんじる・つながる〜」を開催しました。 - 良質な音楽を身近で接していただき、文化・芸術に興味を持つきっかけとなるようサンデーコンサート・モーニングコンサートを開催しました。 - 障がいの有無や年齢に関係なく気軽に公演を楽しみ、障がい者と健常者が公演を通して、相互理解を深める機会を提供することを目的に「バリアフリー公演 サーカスの灯」を開催しました。	
	【こまぶんフェスタ 2023 あーとな 1日〜かんじる・つながる〜】	
	開催日	8月20日(日)
	会場	市民会館、市公民館
	来場者数	延べ1,279人
	【サンデーコンサート・モーニングコンサート】	
	開催日	6月25日(日)、8月27日(日)、10月28日(土)、11月23日(木)、12月10日(日)、2月18日(日)
	会場	味岡市民センター、東部市民センター、まなび創造館
	来場者数	延べ1,119人
	【バリアフリー公演 サーカスの灯】	
	開催日	3月24日(日)
	会場	東部市民センター
	来場者数	357人

点検評価シート（令和５年度実績）

課 題	・舞台出演者の出入りが多く、落ち着いて聞いていただくことが出来なかった回もあったため、再構成の必要があります。 ・令和６年度は、市民会館大規模改修工事により開催場所が変更となる事業もあるため、着実に周知を行い、文化芸術に触れる機会を維持していく必要があります。
今後の取組の方向性	・落ち着いて鑑賞できるよう、舞台構成を再構築するなど改善します。 ・公演情報等がより多くの方の目にとまるよう、SNS等を活用し、周知に努めます。
評価委員の意見等	・特に障がい者の方がバリアフリーに鑑賞できる鑑賞会の開催が評価できると思います。 ・今後も継続的な活動をお願いします。 ・情報の発信の強化をお願いします。

点検評価シート（令和５年度実績）

具体的な取組 (教育振興基本計画の施策番号)	こどもを対象とした文化事業の実施 (施策２９)	担当課																												
		文化・スポーツ課																												
内 容	学校アウトリーチ事業やこども向けの演劇公演など、こどもたちが文化に親しみ身近に感じてもらう機会を提供します。																													
達 成 状 況	・プロのアーティストに依頼し、学校へのアウトリーチ事業を実施しました。 ・こどもたちにより幅広い文化芸術に触れる機会を提供できるようこども向けの公演・美術ワークショップなどを実施しました。 ・生涯にわたって音楽文化に親しみ、心豊かな人間性を育むきっかけとなることを目的として、中部フィルハーモニー交響楽団による幼稚園・保育園・認定こども園、小学校へのオーケストラ巡回演奏、および市内中学校３校の生徒を市民会館大ホールへ招待し演奏会を実施しました。																													
	【学校へのアウトリーチ事業】																													
	<table><tr><td>アーティスト名</td><td>分野</td><td>訪問校</td><td>対象学年</td><td>人数</td></tr><tr><td rowspan="4">桂 宮治</td><td rowspan="4">落語</td><td>小牧小学校</td><td>６年</td><td>103 人</td></tr><tr><td>一色小学校</td><td>５年</td><td>74 人</td></tr><tr><td>桃ヶ丘小学校</td><td>５・６年</td><td>129 人</td></tr><tr><td>村中小学校</td><td>４・５・６年</td><td>158 人</td></tr><tr><td rowspan="2">三門 祐輝 (他４名)</td><td rowspan="2">音楽</td><td rowspan="2">村中小学校</td><td>４年</td><td>48 人</td></tr><tr><td>６年</td><td>62 人</td></tr></table>				アーティスト名	分野	訪問校	対象学年	人数	桂 宮治	落語	小牧小学校	６年	103 人	一色小学校	５年	74 人	桃ヶ丘小学校	５・６年	129 人	村中小学校	４・５・６年	158 人	三門 祐輝 (他４名)	音楽	村中小学校	４年	48 人	６年	62 人
	アーティスト名	分野	訪問校	対象学年	人数																									
	桂 宮治	落語	小牧小学校	６年	103 人																									
			一色小学校	５年	74 人																									
			桃ヶ丘小学校	５・６年	129 人																									
			村中小学校	４・５・６年	158 人																									
	三門 祐輝 (他４名)	音楽	村中小学校	４年	48 人																									
				６年	62 人																									
	【こども向けの演劇公演など】																													
	<table><tr><td>公演名</td><td>会場</td><td>来場者数</td></tr><tr><td>小牧市こども夢・チャレンジ文化事業 美術ワークショップ キャンバスが踊る！～手や足で踊って絵を描こう～</td><td>公民館</td><td>29 人</td></tr><tr><td>小牧市こども夢・チャレンジ文化事業 あつまれ！小牧あそび城（第１回）</td><td>青年の家</td><td>101 人</td></tr><tr><td>小牧市こども夢・チャレンジ文化事業 あつまれ！小牧あそび城（第２回）</td><td>青年の家</td><td>74 人</td></tr></table>				公演名	会場	来場者数	小牧市こども夢・チャレンジ文化事業 美術ワークショップ キャンバスが踊る！～手や足で踊って絵を描こう～	公民館	29 人	小牧市こども夢・チャレンジ文化事業 あつまれ！小牧あそび城（第１回）	青年の家	101 人	小牧市こども夢・チャレンジ文化事業 あつまれ！小牧あそび城（第２回）	青年の家	74 人														
	公演名	会場	来場者数																											
	小牧市こども夢・チャレンジ文化事業 美術ワークショップ キャンバスが踊る！～手や足で踊って絵を描こう～	公民館	29 人																											
	小牧市こども夢・チャレンジ文化事業 あつまれ！小牧あそび城（第１回）	青年の家	101 人																											
小牧市こども夢・チャレンジ文化事業 あつまれ！小牧あそび城（第２回）	青年の家	74 人																												
(次の表に続く)																														

点検評価シート（令和5年度実績）

(前の表の続き)		
小牧市こども夢・チャレンジ文化事業 第19回こまき山おやこラリー「どうする？こまき山」	小牧山他	337 人
小牧市こども夢・チャレンジ文化事業 第4回小牧将棋の集い	南部コミュニティセンター	166 人
小牧市こども夢・チャレンジ文化事業 小牧市民舞台芸術祭（こまき演劇サークルエチュード公演）	東部市民センター	100 人
小牧市こども夢・チャレンジ文化事業 小牧市民舞台芸術祭（ミュージカル劇団スパーク公演）	味噌市民センター	1 回目 280 人 2 回目 280 人
小牧市こども夢・チャレンジ文化事業 小牧市民舞台芸術祭（音楽・ダンス）	味噌市民センター	156 人
オペラシアターこんにゃく座「タンゲ-まほうをかけられた舌-」+うたのステージ	東部市民センター	148 人
角笛シルエット劇場「こぶたのマーチ」「つのぶえのうた」	味噌市民センター	139 人
メナード美術館連携事業 美術ワークショップ 「みんなで描こう！たらしたペンキの動物たち」	中部公民館	18 人
「グレゴの音楽一座」 ～グレゴと人形たちの織りなす不思議な夢の世界～	東部市民センター、西部コミュニティセンター、南部コミュニティセンター	各 70 人 計 210 人
【幼稚園・保育園音楽鑑賞事業、小中学生オーケストラ演奏鑑賞事業】		
開催日	5 月～9 月	
会場	市内 21 保育園、9 幼稚園、2 こども園、 2 小学校、東部市民センター（1 小学校）、市民会館ホール（3 中学校）	
来場者数	延べ 5,607 人	

点検評価シート（令和5年度実績）

	【ジュニア育成文化活動事業 伝統文化指導事業 夏休み子ども文化体験教室】 <table border="1" data-bbox="475 286 1409 436"> <tr> <td>開催日</td><td>7月～8月</td></tr> <tr> <td>会場</td><td>市民会館、公民館、中部公民館</td></tr> <tr> <td>来場者数</td><td>206人</td></tr> </table>	開催日	7月～8月	会場	市民会館、公民館、中部公民館	来場者数	206人
開催日	7月～8月						
会場	市民会館、公民館、中部公民館						
来場者数	206人						
課 題	・より多くのこどもたちへ文化芸術に触れる機会を提供できるよう、開催時期・場所、周知方法を改めて検討していく必要があります。						
今後の取組の方向性	・学校行事や他の地域のイベント時期を考慮し、より集客しやすい開催時期・場所を検討し、チラシの配布時期も含めこどもたちへの周知方法を検討し、取り組んでいきます。						
評価委員の意見等	・こどもが文化に触れる機会大切です。特に小牧らしい内容を期待します。 ・こどもたちが文化芸術に親しめる事業が、多様な分野で開催されていると思います。日本の古典芸能の中で、できれば、人形浄瑠璃文楽もお願いします。国立文楽劇場では、こども向けの演目もたくさんあるようです。 ・今後も継続的な活動をお願いします。 ・各学校の体育館などを利用して、いつでも身近に体験ができる対応が必要だと思います。						

点検評価シート（令和５年度実績）

具体的な取組 (教育振興基本計画の施策番号)	市民文化活動への支援（施策３１）	担当課
		文化・スポーツ課
内 容	新型コロナウイルスの影響により活動の縮小を余儀なくされてきた文化団体が、あらためて活動を再開できるよう相談・支援体制を充実します。	
達 成 状 況	・ コロナ禍で停滞した団体の活動を支援するために、文化財団を核として、文化芸術の灯を再び輝かせるべく取り組みました。 ・ 鑑賞や体験をとおして市民に良質な文化に触れあう機会を提供し、文化・芸術に興味を持ってもらうきっかけを提供する普及事業では、身近に感じることのできる文化・芸術を市民に提供できるよう、文化団体等と連携しながら行い、団体に対して活動の機会を提供しました。 ・ 長い歴史の中で受け継がれてきた豊かな日本文化を継承するとともに、伝統文化に関する理解促進を図る伝統文化事業では、文化協会等と連携し、日頃の活動成果を発表する場を提供し、市民に対しては様々な文化活動に触れる機会を創出しました。 ・ 広報事業では各団体のイベント情報などを、市や文化財団のホームページ等に掲載を行い、周知の支援に努めました。 ・ その他団体の活動支援のため随時相談窓口の設置などを行いました。	
課 題	・ 団体の活動について効果的な周知を行い、集客につなげる必要があります。 ・ 団体の活動活性化につながる効果的なアドバイスが求められます。	
今後の取組の方向性	・ 広報、ホームページ等を活用し周知を行います。 ・ 国や県等が行う研修などに積極的に参加し、職員の資質向上に努めます。	
評価委員の意見等	・ 文化芸術関連の団体は、コロナ禍で運営に打撃を受けたところは少なくありませんので、支援の強化が必要だと考えます。 ・ 今後も継続的な活動をお願いします。	

点検評価シート（令和 5 年度実績）

具体的な取組 (教育振興基本計画の施策番号)	文化・芸術施設の環境整備（施策 3 2）	担当課 文化・スポーツ課
内 容	鑑賞・創作・継承の拠点となる市内の文化施設において、施設の利便性が向上するよう、設備や機能の充実を検討します。	
達 成 状 況	・市民会館は昭和 46 年に建築され、老朽化が進んでいるため、施設を快適に利用していただけるよう設備等の改修工事及び設計を行いました。 市民会館 【市民会館大規模改修工事】 ・老朽化が進む市民会館トイレ、ホール舞台機構、ホール空調機、正面玄関建具などを更新する工事等を行いました（令和 6 年度も継続）。 ・隣接する市公民館と合わせ、一体化した整備を行いました。	
課 題	・小牧市公共施設長寿命化計画に基づき、目標耐用年数まで快適に施設を利用するため、また、利用者の多様なニーズに対応できるよう計画的に維持修繕を行う必要があります。 ・施設の利便性が向上するよう機能の充実についても検討する必要があります。 ・市民会館の大規模改修工事は令和 5 年 11 月から 1 年間程度行われるため、利用団体の活動場所の確保について、工事に支障が出ない範囲でできる限り配慮する必要があります。	
今後の取組 の 方 向 性	・市民会館を安全・安心、また、快適に利用していただけるよう令和 5 年度より継続して令和 6 年度に大規模改修工事を行っていきます。 ・市民会館大規模改修工事の工程等については、利用団体の日頃の活動等に支障が出ないようできる限り配慮し、工事業者と調整していきます。	
評 価 委 員 の 意 見 等	・昭和 46 年建築ですので、将来的に、新たな機能や市民の意見も取り入れた新規建て替えの方向が最も望ましいと考えます。 ・今後も計画的に改修をお願いします。ただ、新規施設の方が、環境整備・改修も無理なく実施できると思います。	

点検評価シート（令和５年度実績）

具体的な取組 (教育振興基本計画の施策番号)	文化財団の活動支援（施策 3 2）	担当課	
		文化・スポーツ課	
内 容	こまき市民文化財団が、文化振興の推進、文化芸術の普及のため、質が高く柔軟な事業企画や、効率的・効果的な運営ができるよう支援を行います。		
達 成 状 況	・ こまき市民文化財団に対して、人件費や事務費、事業費の補助及び文化事業の委託を行いました。 【主な公演事業】		
	公演名	会場	来場者数
	青銅音曲ガムラン演奏集団・ランバンサリジャワのガムランと舞踊	味噌市民センター	207 人
	駒来落語会「瀧川鯉昇独演会」	北里市民センター	211 人
	宝くじ文化公演 森麻季&小柳ゆき スペシャルライブ	市民会館	920 人
	石井竜也スペシャルコンサート 2023 IN KOMAKI	市民会館	1,272 人
	劇団四季ミュージカル「クレイジー・フォー・ユー」(協賛事業)	市民会館	1270 人
	紀平凱成ピアノコンサートツアー2023	東部市民センター	293 人
	JAPAN LIVE YELL project in CHUBU 「桂 かい枝 やさしい日本語らくご」	まなび創造館	63 人
	「色物、あつまれ〜！」～動物ものまね・紙切り・太神楽～	勤労センター	56 人
	THE SOULMATIC(S)(ザ・ソウルマティックス) バレンタイン・ゴスペルコンサート	味噌市民センター	212 人
	浪曲「玉川太福独演会」	北里市民センター	126 人
	課 題	・ より多くの客層に足を運んでいただくため、広く情報発信を行い周知していく必要があります。 ・ 市民会館改修工事に伴い、令和 6 年度に開催予定の事業場所の確保等の支援を行っていく必要があります。	

点検評価シート（令和5年度実績）

今後の取組 の方向性	・こまき市民文化財団の事業を多くの方に知っていただき、参加してもらえよう事業等の周知に連携して取り組みます。 ・令和6年度の開催場所については制限がありますが、開催場所の確保について積極的に支援を行っていきます。
評価委員 の意見等	・集客につながるような情報発信の在り方を検討してください。 ・出演料等、非常に予算が伴う事業になりますので、集客及び運営について、一定の支援と広報に努めてください。 ・市民にとって、文化・スポーツの環境整備は、豊かな暮らしをするために必要なことです。現状は、スポーツ部門は公益財団法人小牧市スポーツ協会が中心だと思っていますが、文化部門については、一般財団法人こまき市民文化財団とは言い切れていない状況だと思います。 そこで、今後は、こまき市民文化財団の公益財団法人化に向けた動きが必要だと思っています。また、市民への分かり易さの観点から考えても必要なことだと思っています。 ・今後も継続的な活動をお願いします。 ・開催場所の確保も行ってください。

基本目標8 郷土の歴史・文化の保存と次世代への継承

- ☞ 郷土の歴史・文化に親しむことで、郷土への愛着や誇りを醸成します。
- ☞ 市民や関係機関と行政が協力し、郷土の歴史・文化遺産の保護、活用を進め、次世代へ継承します。

具体的な取組 (教育振興基本計画の施策番号)	文化財の指定・保護（施策33）	担当課
		文化財課
内 容	新たに保護すべき文化財や散逸、廃棄の恐れのある古文書等を見出す調査を行い、指定・保護を進めます。	
達 成 状 況	・令和6年1月19日に小牧市文化財保護審議会において、市内に所在する創建が西暦1500年以前の寺院及び小牧十観音の札所となっている寺院のうち2寺院について、所蔵する文化財の現地調査を行いました。 ・今年度の調査では、計16点の掛け軸や書簡、2点の仏像などを調査で新たに確認しましたが、掛け軸や書簡については江戸末期以降のもので新しいもの、寺の由緒との関係が明らかでないものなど、また仏像については制作年代が新しい、本来の姿から大きく改変が加えられているなどの理由から、いずれも指定には至らないとの判断でした。	
課 題	・寺院等から「創建は古いが建物は新しくなっており、現在は古いものは所蔵していない」などの理由で調査を断られる事例が多く、新たな文化財を発掘する機会が少なくなっています。 ・神社や寺院が所蔵する資料以外にも、新たに保護すべき文化財の調査対象を広げていく必要があります。	
今後の取組の方向性	・文化財の範囲は幅広く種類も様々であることから、市民がその価値をしっかりと認識し、後世に残していけるよう、文化財の保護・保存の必要性や、現在市内にある有形・無形の文化財の歴史や価値などについて、市民に向けてさらなる周知に努めることで、文化財保護に向けた市民の意識向上を図り、新たな文化財の発掘につなげていきます。	
評価委員の意見等	・多様な文化財の保護に向けて、継続して調査してください。 ・今後も継続的な活動をお願いします。	

点検評価シート（令和5年度実績）

具体的な取組 (教育振興基本計画の施策番号)	古文書・歴史に関する講座等の開催（施策34）	担当課
		文化財課
内 容	古文書や歴史に関する講座の開催をはじめ、文化財巡りや歴史資料の展示・解説などを行います。若い世代が興味を持てるよう、内容の充実に努めます。	
達 成 状 況	・小牧と周辺の歴史を学ぶという大テーマのもと、小牧の歴史への関心を高めることをねらいとして、「小牧市歴史文化基礎講座」を開催しました。（愛知文教大学委託事業） 対象：一般 受講料：各回 300 円	
	開催日	内 容
	7月1日	第1回 講師：石田泰弘 氏 「道中記から見た近世尾張の旅」
	7月8日	第2回 講師：池田洋子 氏 「小牧の美術文化財について」
	7月15日	第3回 講師：蔭山誠一 氏 「小牧城下町上御園遺跡の鍛冶工房の系譜」
	受講者数	65 人
達 成 状 況	・古文書に親しむきっかけをつくることで、歴史への興味関心を高めていただくことをねらいとして、「子ども古文書寺子屋」・「古文書基礎講座（前期）」・「古文書基礎講座（後期）」・「古文書実践講座」を開催しました。（愛知文教大学委託事業）	
	開催日	内 容
	7月29日 8月5日	「子ども古文書寺子屋」（連続2回） 文字釣りゲームや百人一首カルタを通してくずし字の変体仮名や漢字に親しむとともに「小牧山古戦場記」を読みました。 講師：酒向道夫 氏 対象：小学4年生～中学生 受講料：無料
	受講者数	10 人
	(次の表に続く)	

点検評価シート（令和5年度実績）

(前の表の続き)		
(前期) 9月9日 16日、30日 10月7日 (後期) 11月26日 12月3日 10日、17日	「古文書基礎講座（前期）」（連続4回） 「古文書基礎講座（後期）」（連続4回） 初心者の方を対象に、くずし字や変体仮名など古文書の基礎を分かり易く解説し、証文・手紙など身近な資料を読みました。 講 師：酒向道夫 氏 対 象：一般 受講料：900 円	(前期) 21 人 (後期) 12 人
1 月 13 日、 20 日、27 日 2 月 3 日	「古文書実践講座」（連続4回） 講師の助言を受けながら、自分の力で古文書を読み解く力をつけることを目指し、小牧宿に関する古文書に挑戦しました。 講 師：小牧市古文書調査会メンバー 対 象：一般 受講料：900 円	34 人
・小牧宿開設から 400 年にあたることを記念し、小牧宿の歴史をたどるとともに、小牧のお店や家に伝わった古民具を、中央図書館 1 階イベントスペースに展示しました。（愛知文教大学委託事業）		
開催日	内 容	入場者数
8 月 17 日 ～23 日	「小牧宿 400 年展 小牧宿の歴史とくらし」 小牧宿を通る上街道のビデオ上映、小牧宿にかかわるパネル展示・古民具の展示を行い、昔の小牧に思いをはせてもらいました。 対 象：一般 入場料：無料	686 人
・小学校で郷土について学習することを受け、さらに発展的に郷土の歴史や地理・公民的内容への興味関心を高めていただくため、「こまき検定」を開催しました。あわせて、より多くの方にも郷土への関心を高めていただけるようホームページで問題文を紹介しました。（小牧市文化財資料研究員会委託事業）		
開催日	内 容	参加者数
11月3日	「こまき検定」 小牧市の歴史・地理等に関する検定 (全 30 問中 21 問以上の正解で合格 問題の難易度は小学 5 年生程度) 対象：小学生・中学生 参加費：無料	20 人

点検評価シート（令和5年度実績）

	・実際に現地を歩いて直接文化財にふれることで、地域への愛着を高める機会とするため、小牧宿開設 400 年に合わせて小牧宿を巡る講座「文化財巡り」を開催しました。（愛知文教大学委託事業）																	
	<table><tr><th>開催日</th><th>内 容</th><th>参加者数</th></tr><tr><td>11月5日</td><td>「文化財巡り」 小牧の文化財地図「訪ね歩きマップ（小牧地区）」をもとに、小牧宿を散策しました。 案内人：篠田徹氏ほか文化財地図作成委員 対象：一般 参加費：400 円</td><td>15 人</td></tr></table>	開催日	内 容	参加者数	11月5日	「文化財巡り」 小牧の文化財地図「訪ね歩きマップ（小牧地区）」をもとに、小牧宿を散策しました。 案内人：篠田徹氏ほか文化財地図作成委員 対象：一般 参加費：400 円	15 人											
	開催日	内 容	参加者数															
	11月5日	「文化財巡り」 小牧の文化財地図「訪ね歩きマップ（小牧地区）」をもとに、小牧宿を散策しました。 案内人：篠田徹氏ほか文化財地図作成委員 対象：一般 参加費：400 円	15 人															
	・信長と家康、そして秀吉と家康というテーマのもと、小牧とゆかりのある三英傑に迫ることをねらいとして「歴史講座」を開催しました。（愛知文教大学委託事業）																	
対象：一般 参加費：各回 350 円																		
<table><tr><th>開催日</th><th>内 容</th><th>受講者数</th></tr><tr><td>10 月 29 日</td><td>第 1 回 講師：和田裕弘 氏 「桶狭間の戦い」</td><td>127 人</td></tr><tr><td>11 月 11 日</td><td>第 2 回 講師：柴 裕之 氏 「織田信長と徳川家康」</td><td>129 人</td></tr><tr><td>11 月 18 日</td><td>第 3 回 講師：西尾大樹 氏 「秀吉の台頭と家康」</td><td>107 人</td></tr><tr><td>11 月 25 日</td><td>第 4 回 講師：跡部 信 氏 「家康、秀吉に臣従する」</td><td>115 人</td></tr><tr><td>12 月 2 日</td><td>第 5 回 講師：藤井譲治 氏 「太閤秀吉と家康」</td><td>138 人</td></tr></table>	開催日	内 容	受講者数	10 月 29 日	第 1 回 講師：和田裕弘 氏 「桶狭間の戦い」	127 人	11 月 11 日	第 2 回 講師：柴 裕之 氏 「織田信長と徳川家康」	129 人	11 月 18 日	第 3 回 講師：西尾大樹 氏 「秀吉の台頭と家康」	107 人	11 月 25 日	第 4 回 講師：跡部 信 氏 「家康、秀吉に臣従する」	115 人	12 月 2 日	第 5 回 講師：藤井譲治 氏 「太閤秀吉と家康」	138 人
開催日	内 容	受講者数																
10 月 29 日	第 1 回 講師：和田裕弘 氏 「桶狭間の戦い」	127 人																
11 月 11 日	第 2 回 講師：柴 裕之 氏 「織田信長と徳川家康」	129 人																
11 月 18 日	第 3 回 講師：西尾大樹 氏 「秀吉の台頭と家康」	107 人																
11 月 25 日	第 4 回 講師：跡部 信 氏 「家康、秀吉に臣従する」	115 人																
12 月 2 日	第 5 回 講師：藤井譲治 氏 「太閤秀吉と家康」	138 人																
	・南蛮かぶれの信長というテーマのもと、西洋音楽、服飾、屏風という観点から織田信長の実像に迫ることをねらいとして「信長学講座」を開催しました。（愛知文教大学委託事業）																	
	対象：一般 受講料：各回 350 円																	
	<table><tr><th>開催日</th><th>内 容</th><th>受講者数</th></tr><tr><td>2月3日</td><td>第 1 回 講師：野中亜紀 氏 「信長が聴いた西洋音楽」</td><td>70 人</td></tr><tr><td>2月10日</td><td>第 2 回 講師：畠山大二郎 氏 「信長と南蛮の服飾」</td><td>57 人</td></tr><tr><td>2月17日</td><td>第 3 回 講師：内田吉哉 氏 「ヨーロッパに渡った信長の屏風」</td><td>61 人</td></tr></table>	開催日	内 容	受講者数	2月3日	第 1 回 講師：野中亜紀 氏 「信長が聴いた西洋音楽」	70 人	2月10日	第 2 回 講師：畠山大二郎 氏 「信長と南蛮の服飾」	57 人	2月17日	第 3 回 講師：内田吉哉 氏 「ヨーロッパに渡った信長の屏風」	61 人					
	開催日	内 容	受講者数															
	2月3日	第 1 回 講師：野中亜紀 氏 「信長が聴いた西洋音楽」	70 人															
2月10日	第 2 回 講師：畠山大二郎 氏 「信長と南蛮の服飾」	57 人																
2月17日	第 3 回 講師：内田吉哉 氏 「ヨーロッパに渡った信長の屏風」	61 人																
課 題	・引き続き、様々な年代の市民が小牧市の歴史について興味・関心を高められるような講座などを開催する必要があります。 ・若い世代が小牧市の歴史に興味を持つきっかけとなるよう、市内																	

点検評価シート（令和5年度実績）

	に残る貴重な文化や歴史に気軽に触れられるような機会を創出する必要があります。
今後の取組の方向性	・NHK大河ドラマ「どうする家康」にちなんだ内容を入れたことで、「子ども古文書寺子屋」の受講者は前年を大きく上回ることができました。子ども達が興味を持って参加したくなるような魅力ある内容となるよう工夫していきます。 ・「小牧宿 400 年展 小牧宿の歴史とくらし」については、令和夏まつりや秋葉まつりの開催時期と合わせたテーマで、中央図書館イベントスペースにおいて開催したことから、たくさんの方に見学いただき、大変好評でした。来年度も中央図書館での展示を継続・発展させられるようテーマを発掘するとともに、諸行事と同時開催することでより多くの方に見ていただけるよう進めていきます。 ・古文書に興味・関心を持ち親しんでもらえるよう、地元に残る古文書を題材にするなど講座の内容を検討していきます。 ・若い世代により興味・関心をもってもらえるよう、例えば市内で出土したいろいろな時代の土器に触れるなどの、体験を交えた講座内容を検討していきます。
評価委員の意見等	・大学連携の講座は参加人数も多く、市民の関心が高いと思います。継続的に充実してください。 ・学校教育における探求学習とうまくリンクするような企画セッティングを検討してください。 ・歴史に興味を持つ児童生徒が増えていると思います。古文書の読解は、より専門的な研究へと進めていけるスキルでもあるため、若い世代から親しめる講座の開催は継続していただきたい事業です。 ・地元を知る活動をお願いします。歴史上で目立つ時代を掘り下げることも必要ですが、昭和の時代を知ることも重要だと思います。

点検評価シート（令和5年度実績）

具体的な取組 (教育振興基本計画の施策番号)	史跡小牧山主郭地区整備基本計画の推進（施策35）	担当課
		小牧山課
内 容	令和7年度の完成を目指し、史跡小牧山主郭地区のうち、小牧山歴史館周辺の石垣復元等の史跡整備工事を進めます。	
達 成 状 況	・史跡整備工事第2工区（小牧山歴史館南側箇所）において3段の石垣復元を主とした史跡整備（整備面積約1,831㎡）を行い、令和6年3月末に完了しました。 ・平成30年度に実施した主郭地区第11次発掘調査で見つかった礎石に対応する礎石を確認し、建物規模や配置を明らかにすることにより、曲輪023の性格を明らかにするため、6～12月に主郭地区第4工区発掘調査（山頂南2段下の曲輪023）を実施しました（調査面積約191㎡）。 ・発掘調査の成果として、調査区東側では礎石建物を検出しました。柱間寸法は1間＝6尺（180cm）であり、礎石の抜き取り痕の可能性のある落ち込みを1基確認しました。その他に調査区内において、石垣、溝1条、用途不明の石敷遺構1基を確認しました。また、11月22日～24日に調査成果の公開を行い、902人が参加しました。	
課 題	・工事中の安全確保のため立入規制範囲を設ける必要があり、ホームページへの掲載や現地に看板等を設置して周知しましたが、歴史館や史跡小牧山の利用者から分かりづらいという意見がありました。 ・主郭地区には貴重な遺構が分布しており、今後も史跡整備の設計に必要な地下遺構の情報を先行して調査する必要があります。 ・本計画に対する市民の関心、理解を深めていく必要があります。	
今後の取組の方向性	・令和7年度の完成を目標に、引き続き歴史館周辺の史跡整備工事を実施していくに当たり、工事監理業者や施工業者と作業計画について十分に協議・調整を行い、円滑に史跡整備を進めます。 ・工事に際しては、矢印看板や通行止め看板の設置個所を増やすなど、目につきやすい表示を心掛けることにより、来場者の安全の確保に努めます。 ・引き続き、史跡小牧山の価値を正しく、わかりやすく後世に伝えるような史跡整備を進められるよう、令和6年度は大手道の構造を把握することを目的とした、（仮称）大手道第1次発掘調査に取り組みます。 ・市ホームページ、小牧山城史跡情報館（れきしるこまき）における展示及び現地公開等により、発掘調査や史跡整備の成果や今後の予定について、周知に努めます。	

点検評価シート（令和5年度実績）

評価委員 の意見等	・成果の公開や見学会など市民に調査結果の還元ができる機会の充実に期待します。 ・史跡整備工事は、計画どおり、安全に進めていってください。 ・今後も継続的な活動をお願いします。
--------------	---

点検評価シート（令和５年度実績）

具体的な取組 （教育振興基本計画の施策番号）	史跡小牧山の歴史的価値や魅力の啓発（施策３５）	担当課 小牧山課
内 容	史跡小牧山の歴史的価値や魅力について、小牧山を来訪された方により理解していただけるよう、小牧山歴史館及び小牧山城史跡情報館（れきしるこまき）において企画展示や講座等を開催します。	
達 成 状 況	・小牧山歴史館及び小牧山城史跡情報館（れきしるこまき）において、指定管理者である（一財）こまき市民文化財団により下記のとおり各種事業を行いました。令和６年度は、NHK大河ドラマ「どうする家康」の放送や、小牧公園として一般開放されてから150年目にあたることなどを踏まえたタイムリーな情報を提供することにより、小牧山の歴史的価値や魅力の周知に努めました。 ●歴史館企画展 「石垣で見る日本のお城写真展」 期 間 ２月１日～３月２０日 会 場 歴史館１階 無料エリア 来場者数 16,725人 ●れきしるこまき企画展 「愛知県最初の公園『小牧公園』150年の歩み」（第１期） 期 間 ４月１日～８月７日 会 場 エントランス・レクチャールーム間通路 来場者数 31,804人 「令和４年度小牧山主郭地区発掘調査と石垣復元パネル展」 期 間 ４月２９日～６月１４日 会 場 企画展示・資料室 来場者数 5,139人 「家康の天下をとるは小牧にあり 小牧・長久手の合戦」 期 間 ８月１日～９月２０日 会 場 企画展示・資料室 来場者数 6,925人 「愛知県最初の公園『小牧公園』150年の歩み」（第２期） 期 間 ８月８日～１２月２７日 会 場 エントランス・レクチャールーム間通路 来場者数 44,975人	

点検評価シート（令和５年度実績）

「令和５年度史跡小牧山主郭地区第４工区発掘調査報告」

期 間 １月１７日～３月３１日

来場者数 ７,０８６人

●小牧山歴史館事業

開催日	内容	参加者数
４月３０日	甲冑試着体験	１２人
５月３日	小牧山城茶会	２００人
４月～３月の 毎週土・日曜日	忍者衣装試着体験	６８人

●小牧山城史跡情報館事業

開催日	内容	参加者数
８月１日～ ９月２０日	ぐるぐるめぐる！小 牧山スタンプラリー （夏季）	８９８人
１０月１５日、１１ 月１２日・１９日	甲冑試着会	６７人
１１月３日	小牧山城茶会	１５０人
１１月２１日～ １２月２７日	ぐるぐるめぐる！小 牧山スタンプラリー （秋季）	７６３人

●れきしるこまき講座・講演

開催日	演題	講師	受講者数
５月５日	れきしるこまき講座① こどもの日スペシャル講座 「教えて、れきしクン！ 小牧山城＆徳川家康」	れきしクン （長谷川嘉輝氏）	４５人
１０月１４日	れきしるこまきジュニア講座 「家康ＶＳ秀吉～ 小牧・長久手の合戦」 （１回目）	れきしるこまき 職員	１９人
１０月２８日	れきしるこまき講座② 「徳川家康と忍び」	山田雄司氏（三 重大学教授）	７８人

（次の表に続く）

点検評価シート（令和5年度実績）

	(前の表の続き)																								
	11月19日	れきしるこまきジュニア講座 「家康 VS 秀吉～小牧・長久手の合戦」(2回目)	栗木英次氏 (会場:岩崎山・岩崎中会館)	18人																					
	12月3日	秋の小牧山 大人のわくわく史跡探検	れきしるこまき職員	28人																					
	2月18日	れきしるこまき講座③ マニアックな世界へようこそ！専門家のお仕事トーク！～小牧・長久手の戦いに携わる猛者たち～	田中芳樹氏 内貴健太氏 中野拳弥氏 川出康博氏	74人																					
●れきしるこまきワークショップ																									
<table><tr><th>開催日</th><th>内容</th><th>参加者数</th></tr><tr><td>6月4日</td><td>小牧山城の発掘品にふれてみよう！</td><td>14人</td></tr><tr><td>7月30日</td><td>小牧山城本丸石垣ジオラマをつくろう</td><td>20人</td></tr><tr><td>11月5日</td><td>木の実でつくろう！足軽人形</td><td>60人</td></tr><tr><td>11月11日</td><td>木の実でつくろう！足軽人形</td><td>58人</td></tr><tr><td>3月10日</td><td>発掘品模型と花押缶バッジを作ろう！</td><td>9人</td></tr><tr><td>3月17日</td><td>大人の発掘調査</td><td>27人</td></tr></table>					開催日	内容	参加者数	6月4日	小牧山城の発掘品にふれてみよう！	14人	7月30日	小牧山城本丸石垣ジオラマをつくろう	20人	11月5日	木の実でつくろう！足軽人形	60人	11月11日	木の実でつくろう！足軽人形	58人	3月10日	発掘品模型と花押缶バッジを作ろう！	9人	3月17日	大人の発掘調査	27人
開催日	内容	参加者数																							
6月4日	小牧山城の発掘品にふれてみよう！	14人																							
7月30日	小牧山城本丸石垣ジオラマをつくろう	20人																							
11月5日	木の実でつくろう！足軽人形	60人																							
11月11日	木の実でつくろう！足軽人形	58人																							
3月10日	発掘品模型と花押缶バッジを作ろう！	9人																							
3月17日	大人の発掘調査	27人																							
課題	・更に多くの方にご来場いただけるよう、小牧山城の歴史や魅力を発信する方法を、指定管理者と連携し検討する必要があります。																								
今後の取組の方向性	・指定管理者である（一財）こまき市民文化財団において、引き続き史跡小牧山の発掘調査の成果や、史跡整備の状況の解説などタイムリーな企画展示や講座などの開催に努めます。 ・両施設で行った来場者アンケート結果では、来場者の約9割が市外の方であることから、市外に向けた施設のPRに努めるとともに、市内の方にリピートしていただけるような企画展やワークショップの開催に努めます。																								
評価委員の意見等	・集客につながるような情報発信の在り方を検討してください。 ・織田信長にはじまる由緒ある歴史を持ち、歴史の舞台ともなった貴重な史跡であるため、その啓発活動は、市民のみにとどまらず、全国的に展開していくべきものであると考えます。 ・今後も継続的な活動をお願いします。																								